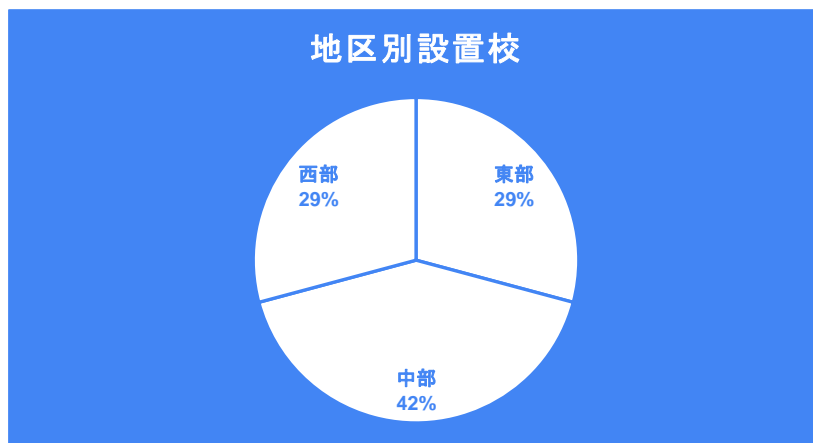
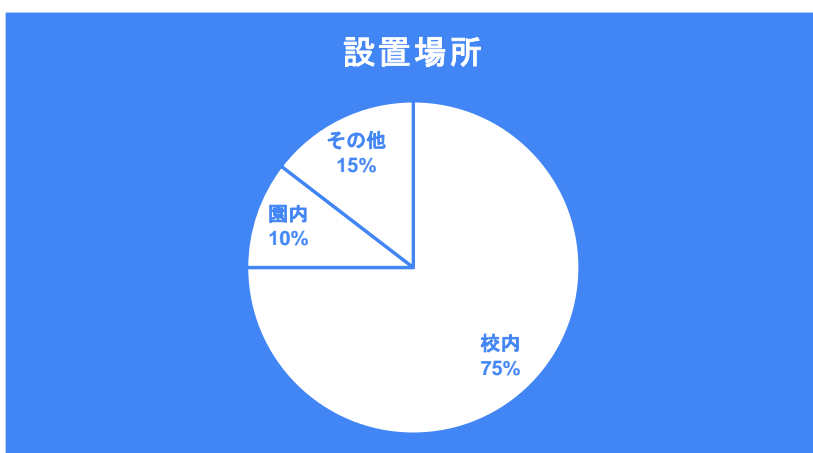


幼児まとめ

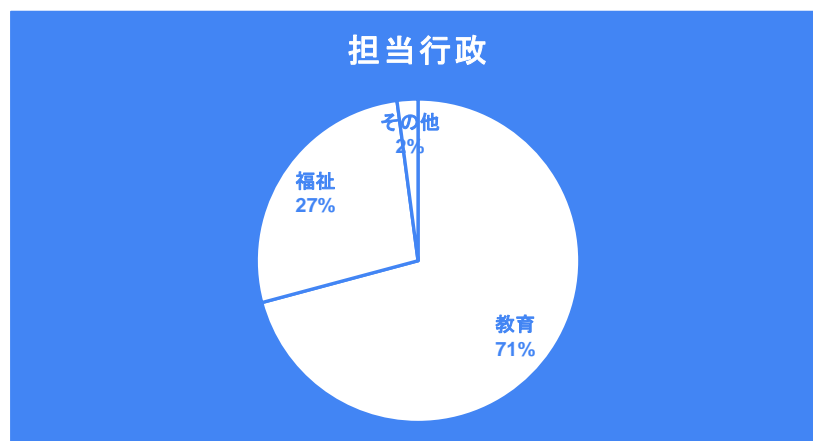
地区別	
東部	14 校
中部	20
西部	14
合計	48



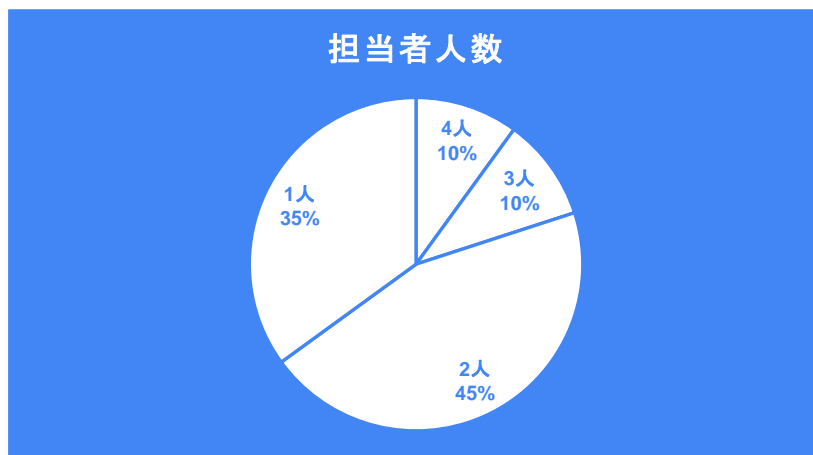
設置場所	
校内	36 校
園内	5
その他	7



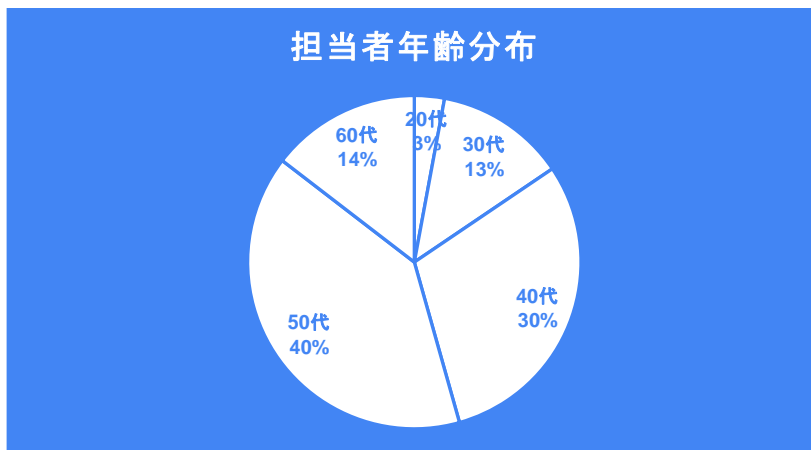
担当行政	
教育	34 校
福祉	13
その他	1



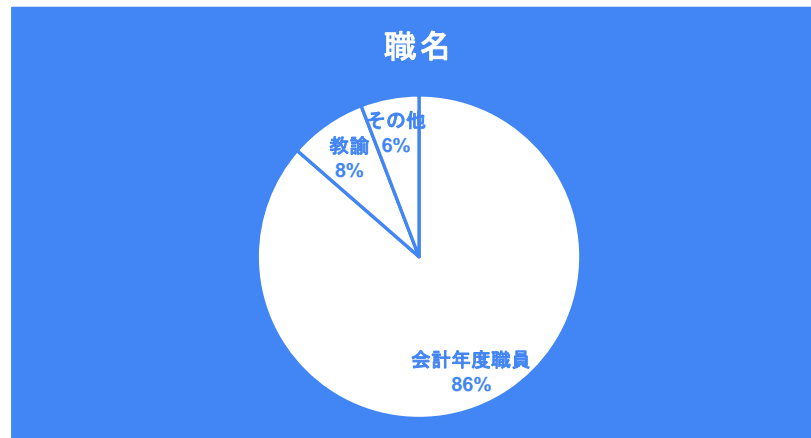
担当者人数	
4人	4 校
3人	4
2人	18
1人	14



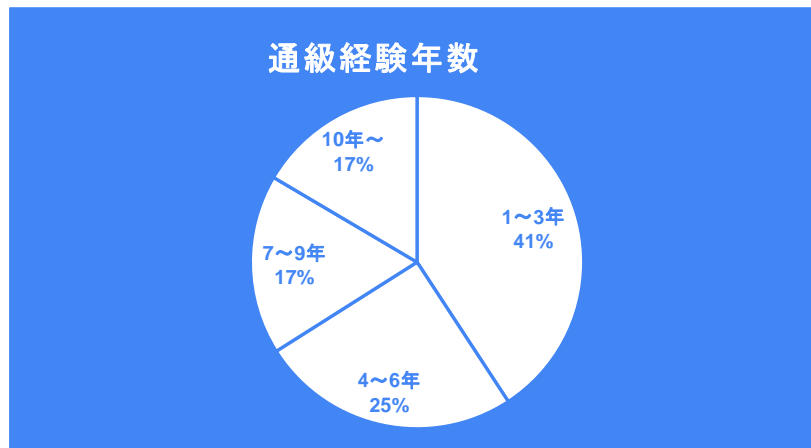
担当者年齢	
20代	3人
30代	13
40代	31
50代	41
60代	15
合計	103



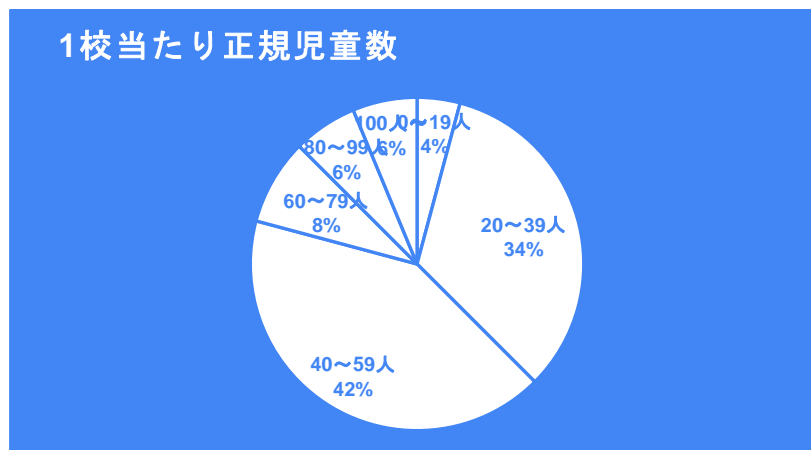
職名	
会計年度職	89人
教諭	8
その他	6



経験年数	
1～3年	42人
4～6年	26
7～9年	18
10年～	17



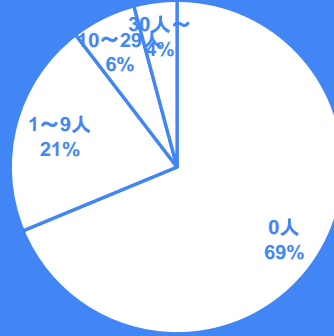
1校当たりの正規指導児童数	
0～19人	2校
20～39人	16
40～59人	20
60～79人	4
80～99人	3
100人～	3



通級児	担当
袖師小幼	88 3人
掛川幼	94 4人
川原小幼	96 3人
麻機小幼	104 4人
浜田小幼	120 4人
静岡市幼	122 4人

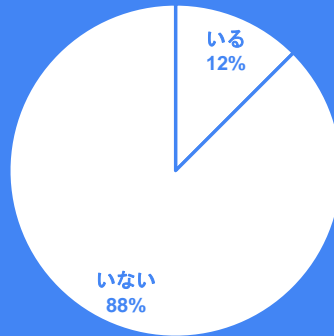
非正規指導児童数	
0人	33 校
1～9人	10
10～29人	3
30人～	2
計	183 人
めばえ	30 人
みゆき	53 正<非

1校当たり非正規児童数



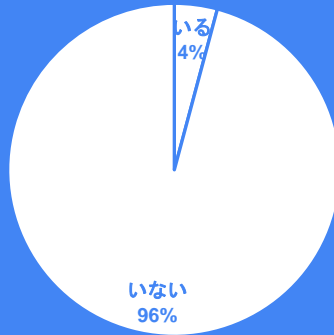
待機児童の有無	
いる	6 校
いない	42

待機児童の有無



他町から受入れ児童有無	
いる	2 校
いない	46

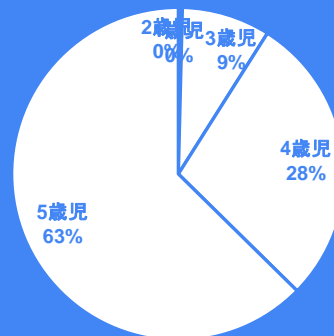
他市町からの受け入れ児童の有無



※めばえは掛川・森・御前崎・菊川対象で指導しているので「いない」にしてある。

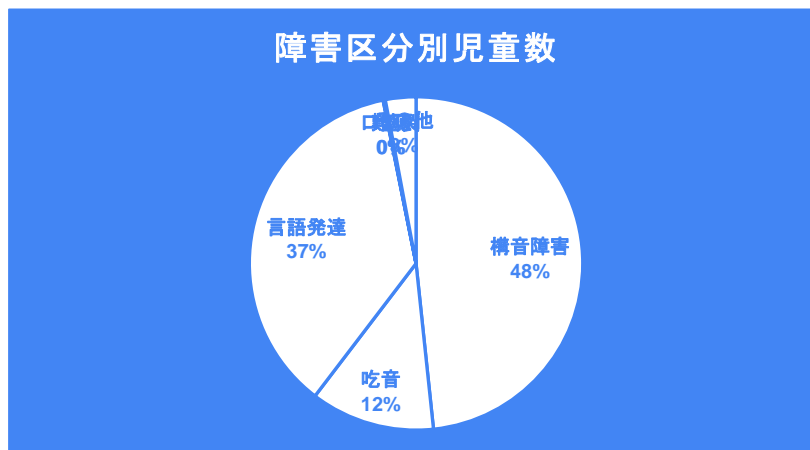
学年別通級児童数	
1歳児	2 人
2歳児	7
3歳児	200
4歳児	661
5歳児	1458
合計	2328

年齢別児童数

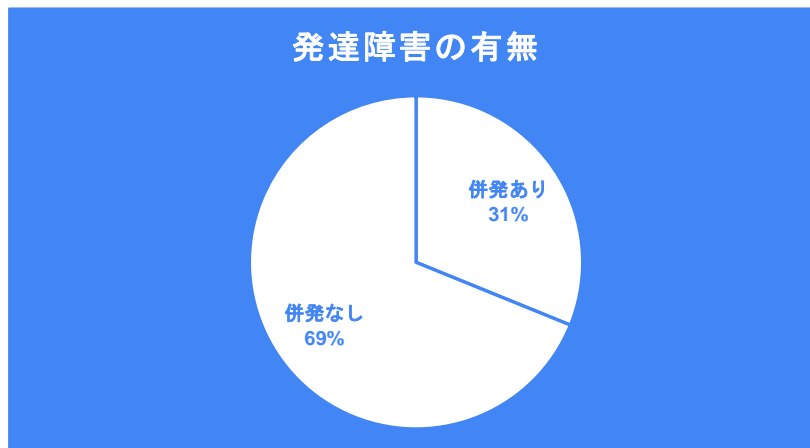


障害区分別通級児童数	
構音障害	1128 人
吃音	281
言語発達	851
口蓋裂	1
難聴	4
その他	69
合計	2334

※合併が6人
いることになる。



発達障害の併発通級児童数	
併発あり	727 人
併発なし	1607
合計	2334



ICTの活用例

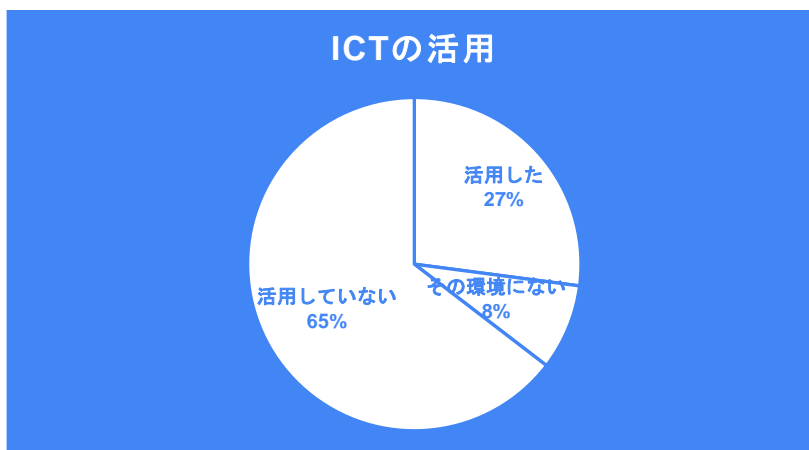
- オンライン研修
- タブレットを使った構音指導、オンライン指導、パワーポイントを使用した集団指導、音質を重視したスピーカーの活用など
- ・タブレットを使って、会話に出てきた動物などをインターネットで調べる。
・タブレットを使って、子供の口の中の写真や動画を撮り、一緒に見返す。
- タブレット端末に子どもの発音している様子を録画し、研修会で講師の方に見ていただき、指導方法を教えてもらった。
- 教材の提示・授業公開・保護者対象の吃音カフェでの資料提示や動画鑑賞
- 幼児ことばの教室にはタブレットや担当者アカウントが支給されていないため活用が難しい
- タブレット使用（絵カードにないものの検索、提示）
- 終了時保護者アンケート
- 幼児の場合実際の指導場面では感覚を育てるためICTの活用はあまり考えていませんが、教材づくりではインターネットからの情報をかなり使用しています。

- 『きくきくドリル』、音声の録音
- パソコン教材の使用
- 研修で使用
- 対面指導を希望する保護者が多く、オンライン指導の体制を整えたが、現時点での利用実績はなし。写真や動画で口腔運動や構音の練習ができるように、教材を作成。対面指導においても飛沫防止のため使用している。
- マスクを着用したままの指導で口元が見せられないため、口の体操や舌の位置等を写真や動画に撮って指導に利用した。

- 幼児ことばの教室にはタブレットや担当者アカウントが支給されていないため活用が難しい
- 特になし（タブレットがない）
- ネット環境が整ってなく、幼児の職員室指導室では使用できない。
- ICTを活用する環境がありません。

ICTの活用	13
活用した	27
その環境に	4
活用してい	31

※「活用していない」の中には、その環境にないものも含まれているかもしれない。



後継者育成の工夫

- 幼児担当者だけの研修および打ち合わせ会を週一回行っている
- 指導の実践を記録に残す。研修会での討論、少人数での情報交換。
- 教室内で話せる雰囲気づくり、情報交換、研修、子供の情報の共有、教材の共有

- 自分自身が2年目で日々勉強中です。
- 週一回、児童・幼児合同で研修を行っている。
- 教材の共有 指導参観 複数相談 部内研修
- ・通級している子供の課題について担当者同士で話し、情報を共有する。
- 研修等の資料を残しておく・研修会への参加・経験のある先生を講師として来ていただき、日ごろの疑問・質問に答えてもらう。
- 研修会時や電話メールなどで他校担当者の相談にのる、教材紹介、参加した研修の共有、担当校による授業公開（浜松市）などを行っている
- 週に1回程度、幼児ことばの教室と学齢の言語通級指導教室合同で研修をしている。

- ・その都度、部会を行い、課題を解決するようにしている。
- 指導や情報の共有をすること。指導者同士で、話し合うこと。他機関で行う研修会の参加の声掛けをする。
- 困っていることを話し合い、一人で抱えないようにしている。
- 小学部職員や経験のある職員に、何でも聞いたり話し合ったりできる場になるようにしている。
- ・担当者を複数配置している。
- 教材指導方法ファイルの作成
- 市内の通級指導教室担当で年数回の研修会を実施している。小・中学校、幼児の担当が指導を見せ合ったり、事例を検討し合ったりしてつながりを深めるとともに、お互いに学び合っている。
- 具体的に指導の仕方を見せたり、教材の使い方ややり方を口頭で伝え、教える。
- 職場のあたたかい雰囲気に努め、モチベーションを保てるように共に学びあっていく気持ちを大切にしている。
- 職員間で指導の方法などを話したり、有効な教材を紹介し合ったりする場、わからないときに気軽に質問できる環境作りをしている。又、ペア活動などでお互いの話し方、教え方など学び合っている。
- こども発達支援事業所の研修会でことばの発達についてお話しさせていただきました。
- 子どもセンターの言語聴覚士に月1程度、勉強会をお願いしている。
- 共に考えシェアすること、資料や教材は手本を実際に見せて行っている。
- ・指導、検査、教室運営を信頼して任せて経験を積んでもらっている。
- 指導を公開して研修を行っている。
- 外部研修の情報共有、質問しやすい雰囲気づくり等
- マニュアルの作成
- 会計年度職員のため、特にしていることはありません。
- 指導については、課題よっての指導内容を一緒に考えたり、教材を作ったりしている。プレイルームにサーキットを作り粗大運動が常に行えるようにしている。事務的なことはそれぞれが責任をもって行えるように1年ごと分担している。仕事の内容は担当者同士で確認しながら行っている。

- 経験者の指導の様子や、相談の様子を何回か見学してもらっている。また、グループ指導の内容について話し合い、各児の見たてについて確認しあっている。

- 富士市の4園が共通して行い、知識や経験を深めています。
- 職員を二人体制にしている
- 常に話し合いを持ち指導方法教材等共通理解をすることで信頼関係を築いている。

- ・公開保育を行い、指導法の幅を広げられるようにしている。
- 通級指導教室の参観を行い、どんなふう to 指導しているのか見て知ってもら
- 専門性を高めるため、初任者や2年目の担当者を対象に公開保育等の研修会を富士市立幼稚園全体で行った。
- 研修会に参加したり、実際の指導を見てアドバイスしています。希望ですが、研修
- 2人体制で指導しているので、片方が教えることができる。
- 市の研修で2年目研修として公開保育をし、見てもらったり経験のある担当の指導を見せてもらったりしている。

- 何もなされていません。指導や相談をした時間に応じて報酬が支払われる形態で働いているため、指導以外のことには関わっていません。

希望する研修

- 幼児のことばの遅れについての研修を深めたい。
- 中川信子先生、新任者研修、保護者対応の研修 諸検査の研修
- 牧野泰美、湯汲英史、中川信子
- 幼児の指導を、基礎の基礎から学びたいです。
- ・検査の読み取り方
- 吃音 菊池先生
- 側音化・口蓋化構音の指導事例や実践
- 山下ゆかり先生の構音指導（毎年でも受けたいです）
- 幼児期の吃音指導について（詳しく具体的に知りたいたいです）
- 西田先生、山下夕香里先生、あべこうじ先生、山口清明先生（NPO法人はぴりす代表理事）
- 構音指導についての、実際の様子を知りたい。
- 言語発達がゆっくりな子供に対しどのような指導をするとよいのか教えていただきたいです。
- 幼児期の全体発達の目安を、詳しく学べる機会があると嬉しいです。
- ・言語発達のお子さんの指導で活用する、教材や指導法
- 吃音指導の研修
- 幼児の発達障害について
- 構音・吃音・発達障害について
- 専門分野の講演もとてもよかったです。心理学、精神科医の先生の講演にも興味があります
- 菊池良和先生の吃音
- コロナ禍で他所の指導を研修できないので、オンラインで
- 実践的な指導法を知りたい。
- 医師の発達障害等の診断基準最新情報
- 今年度から、リモートで講師の先生のお話を聞くことができ、とてもよかったです。
ホームページから資料も印刷することができ学びやすくなったと思いました。
来年度もリモートで、講話を視聴し学びたいです。
- 愛着障害に対するアプローチ
- 選択性緘黙について具体的な指導例の研修があれば参考にしたいと思います。
- 榎原洋一先生(お茶の水女子大学名誉教授)
- 言語発達遅滞の支援（大伴 潔）、難聴とことばの発達の関係と支援（長南 浩人）、
発達障害の最新情報（杉山 登志郎）、幼児期のことばの遅れ（中川信子）
- 自閉スペクトラム症傾向幼児への言葉の指導について勉強したいです。
- 具体的な指導方法を研修したい。
- ・吃音の基礎知識、実践例や症状によつての指導内容について
- 定例研での分科会は、毎回どこにしようか迷います。
- 山下夕香里先生（昭和大学）による側音化構音、口蓋化構音に関する講演
- 定例研や東部地区全体の研修も必要だと思いますが、東部地区は第一から第四支部に分かれていますので、可能であれば、支部別に分かれてもう少し気軽に行える研修会があってもいいのではないかと思います。
- どんな練習を行っているのか、雑談をしながら聞きたい。
- 中川信子先生

ご意見等

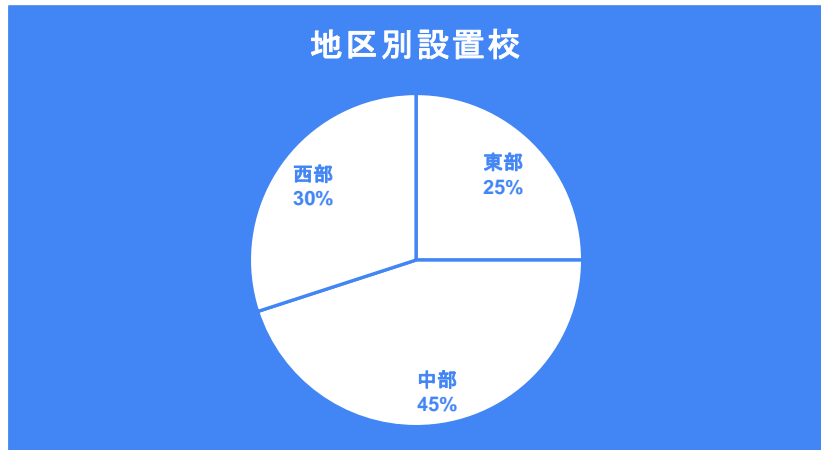
- 浜松市は親の会に原則入ることになっており、学校から1人地区役員を出さなければならず、担当者と保護者の負担になっている。親の会の仕事を軽減したい。
- ・教室内の指導児が増えたため、遠隔地へ訪問する指導が負担になっている。山間部の遠隔地指導のための要員がほしい。
 - ・ 検査用紙が不足している。
 - ・ 祝日の振替が負担になっている。年休を増やすなどの対策をしてほしい。
 - ・ 教室や教材室がせまく、指導がしづらい。
- 小学校ではなく、市の機関(施設内)で教室の運営がされればいいと思います。
- ・子供の困り感が多様化しているため、支援先、支援方法など平等な判断をしてもらうために、窓口を一本化してほしい。各学校は、その判断のもと指導を行うという「センター方式」を導入してほしい。
 - ・ 浜松市は、保護者が直接ことばの教室に相談し、ことばの教室の担当者が審査のための検査をしている。(担当者のほとんどは、専門性のない教員が担当している。)検査後、毎月行われる「浜松市入退級審査会」にかけるが、その中で他の支援(療育等)が望ましいと思われる子供が、自校だけでも毎年十人程度いる。審査会やその手続きなどに時間や労力を使うことが多く、本来の言語の指導が十分にできないこともあり、多くの幼児ことばの教室担当者の悩みの種となっている。
- 本年度担当者が1名増えたが、教室の整備や消耗品・備品の補充がされなかった。
- コロナ対策でマスクを付けた状態での指導が続いているが、他教室でどのように発音練習をしているのかを知りたい。
- 幼児ことばの教室には、教室用タブレットは正式に支給されていません。学校予備での対応となっているため、配備されていない教室もあります。教材提示用として不可欠です。ぜひ予算化してください。
- ・ことばの教室直通の電話が欲しい
- 現在、担当者の任用は学校教育課、専門調査個票のやり取りや入級の許可等は幼稚園保育園課である。来年度の担当行政は今の段階で決まっていない。幼児ことばの教室が小学校の一部の教室ではなく、幼保こども園に近い教室へ変わりつつある。過渡期であるため、やりにくさを感じることもある。
- ・幼児ことばの教室のニーズは年々増している。それに伴って、相談件数が増加し担当の仕事も増えている。勤務内容に見合った、待遇を希望します。
 - ・ 園や保護者は、発達の相談窓口として相談に来る方が多いため、本来なら、園や保健センター、療育機関で行うコーディネータ的な仕事をことばの教室で行うことになるので負担が大きい。
- 備品(特にプレイルームで使用する大型の用具)等の修繕が必要になっても、その費用を出せるところがなくて困っている。
- ・市内に一か所しかないため、片道30分以上かけて通級している家庭があるため、「負担になっている」との意見が保護者から毎年でている。
 - ・ 教室数が少なく、スペースやプレイルーム、学校の空き教室を使用して指導を行っている。防音設備がないため、指導を行いにくい。
- ・保護者が送迎できないため、指導が必要であるが、通級できない幼児がいる。
- Wi-Fi環境が無く、パソコン支給もされていない。Wi-Fi環境を整えて欲しい。
- ネットに繋がるパソコンが欲しいです。
- 非常勤職員が多く、待遇面で恵まれていないことが多く若手の育成につながりにくい。

補助金をいただけてありがたいが個人のたてかえになることに不安を感じた
- ICTを活用した指導ができれば、個々に合わせた指導にも幅ができると思うのですが、残念ながらネット環境が整っておらず、タブレットなどの機器もないので行えません。設備環境を改善してほしいと思います。現在会計年度職員という立場ですが、正規職員となり、立場や勤務を補償された雇用体制になればと思います。
- インターネットが使えないのは大変不便です。また個人情報扱うためできたクラウドで安全に情報管理をしたいです。今回このフォームでのアンケートはとても回答しやすかったのですが、ネット環境がないため、個人のアカウント、Wi-Fiを使用しました。
- 運営委員会、ご苦労さまです。いつもありがとうございます。対面で研修が受けられることを祈ります。
- 毎年幼児の教室には、教材費の補助金をいただき大変助かっています。しかし、保護者向けの書籍の購入は認められていません。年齢が低ければ低いほど、お子さんに対する保護者の理解は重要です。現在はネットなどで手軽に情報は入手できますが、そのお子さんに合った情報であることが大切であり、保護者との共通理解を深めるためにも購入を許可していただきたいです。
- インターネットが使用できません。オンラインの研修が増え、興味があるものに参加しやすくなりましたが、所属する課としては導入の話はなかなか進まず、学校の先生方のご厚意に甘えています。他市のことばの教室の状況はいかがでしょうか？

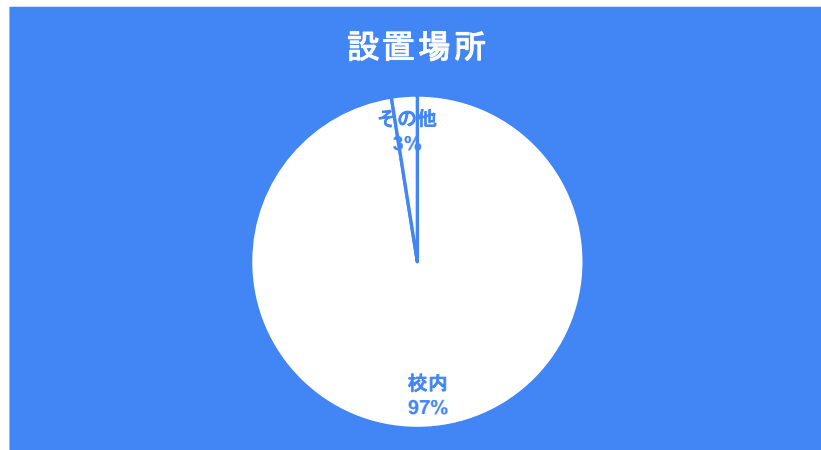
- ネット環境の整備
- iPadの導入を検討していただきたい。
- ネット環境が整っていないため、不便を感じるが多々あります。校内の通級指導教室の先生方にお世話になっています。
- コロナの影響で研修がリモート開催になったことで会場費がかからなくなったことで書籍を2冊いただくことができました。補助金ではこどもの手に触れるものの購入しかできないため、とても助かりました。どちらも指導にすぐ役立つものだったので嬉しかったです。
- ICT環境が整うと、指導の幅が広がると思います。
- パソコンやプリンター、Wi-Fiを使えるようにして欲しい。
- ・コロナの感染が広がっても、zoomで会議ができ、講演を聞けることはありがたいです。しかし、自分たち専用のiPadは用意してもらえないため、設置校から借りている状態です。教室にWi-Fi環境もありません。環境が整っていくことを望んでいます。
 - ・オンラインでの講演会は、遠方まで旅費が出ないため、とてもありがたいです。空き時間を使って聞くことができている。しかし、時間を作る工夫が必要です。忙しい先生方は見れていない方もいて、残念です。
 - ・会計年度職員になり、保障は広がりましたが、休みを自由に取れないことは悩みです。
 - ・通級を希望しても、保護者の仕事の都合などで通級できず、指導が積み上がらない子があります。通級日時を不定期という形をとり、保護者と相談しながら日程を決めるのですが、難しいです。
- Wi-Fi環境が整っていない。臨機応変にオンラインでの対応ができるとうい。
- ・コロナ禍で担当者はマスクを外せない中、舌の体操等、見本を示すタブレットがあるとより充実した指導ができるので、タブレットがクラスに一台ほしい。
- 現在の勤務時間は、週4日のため、どうしても隔週を設けないと待機児が出てしまいます。また、発達障害や発達障害の疑いがある希望者が増え、ことばだけの指導を必要とするお子さんが今後待機になる可能性があります。
- 昨年度からzoomの研修が多くなりましたが、当センターではWi-Fiの環境が整っていないことと、zoomを使う場合は市の別の部署から機材を借りて来ないと使えないので不便です。
- クーラー、音響(環境)

学
齡
言
語
ま
と
め

地区別	
東部	10 校
中部	18
西部	12
合計	40

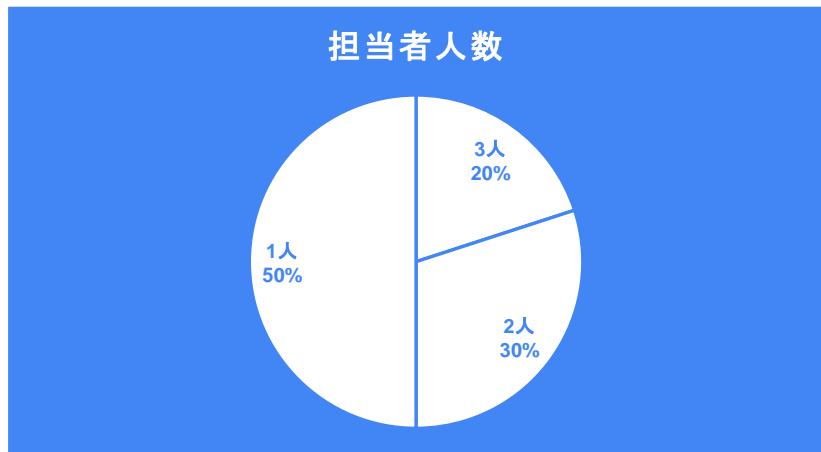


設置場所	
校内	39 校
その他	1



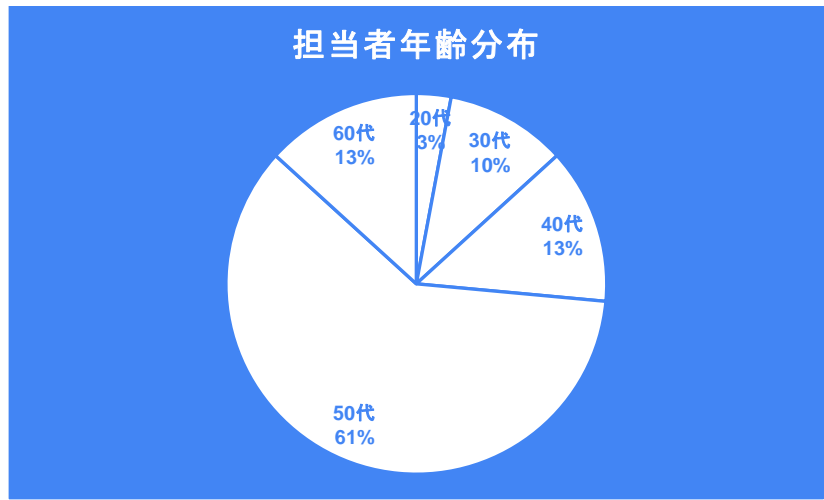
担当者人数	
3人	8 校
2人	12
1人	20

※会計年度職員が3人態勢校で1名

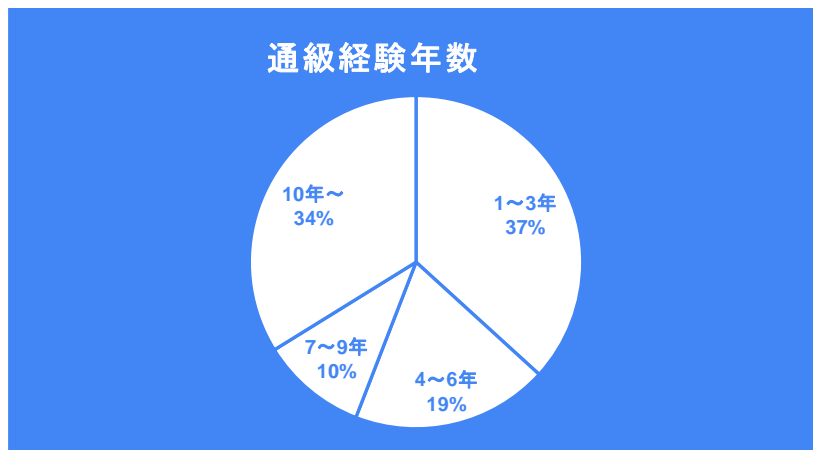


担当者年齢	
20代	2人
30代	7
40代	9
50代	41
60代	9
合計	68

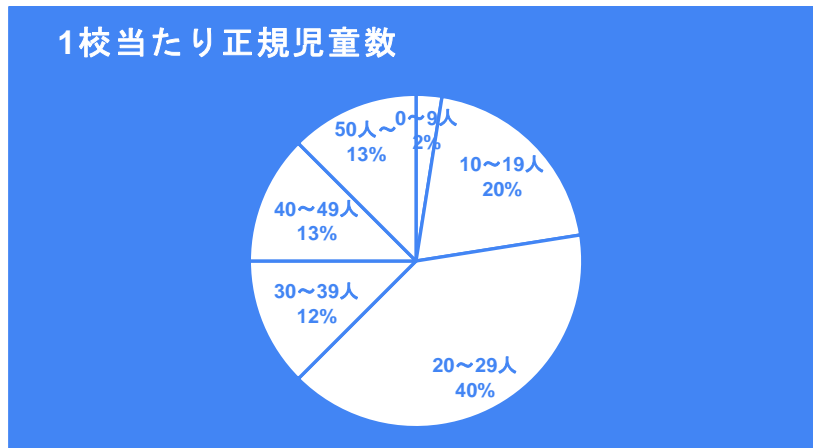
※会計年度職員は
50代



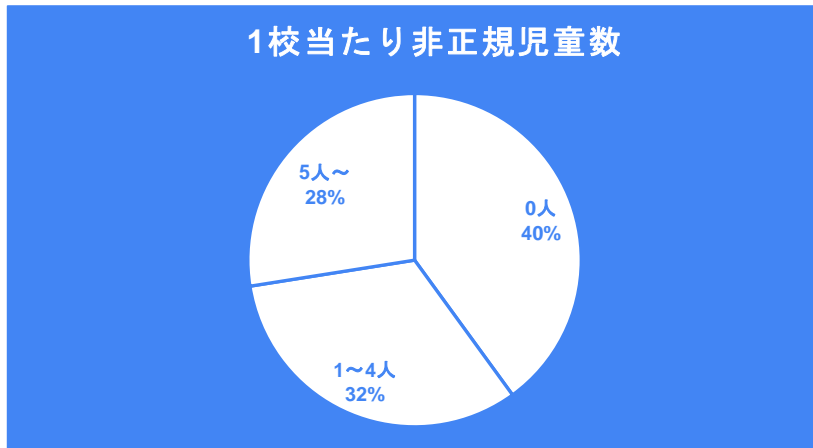
経験年数	
1～3年	25 人
4～6年	13
7～9年	7
10年～	23



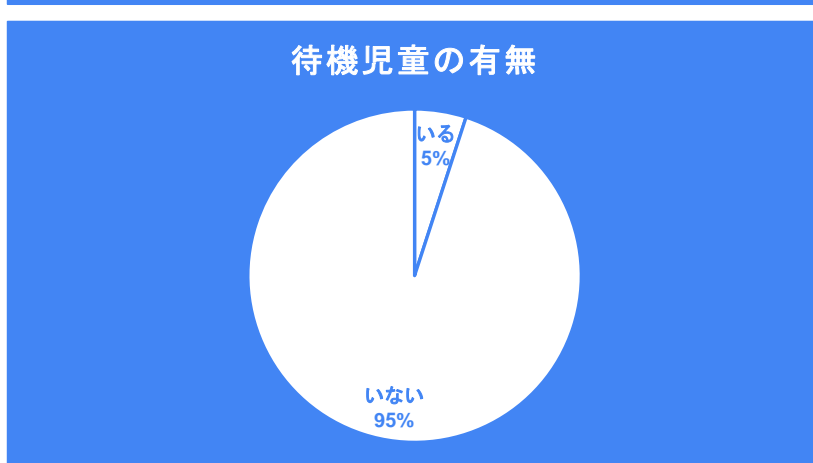
1校当たりの正規指導児童数	
0～9人	1 校
10～19人	8
20～29人	16
30～39人	5
40～49人	5
50人～	5
計	1181 人



非正規指導児童数	
0人	16 校
1～4人	13
5人～	11
計	23 人



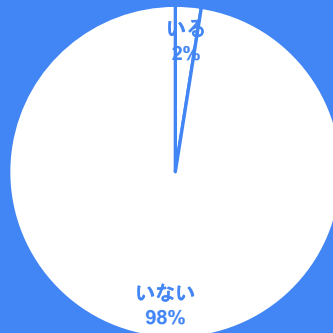
待機児童の有無	
いる	2 校
いない	38



他町から受入れ児童有無	
いる	1 校
いない	39

※受け入れ自治体は
下田市で1人

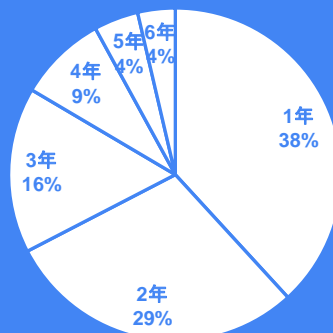
他市町からの受け入れ児童の有無



学年別通級児童数

1年	451 人
2年	345
3年	190
4年	101
5年	51
6年	43
合計	1163

学年別通級児童数

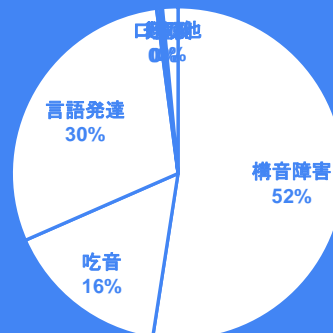


障害区分別通級児童数

構音障害	633 人
吃音	193
言語発達	356
口蓋裂	4
難聴	3
その他	18
合計	1209

※合併が44人
いることになる。

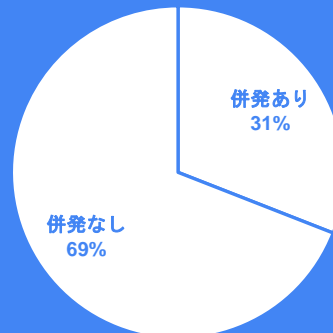
障害区分別人数



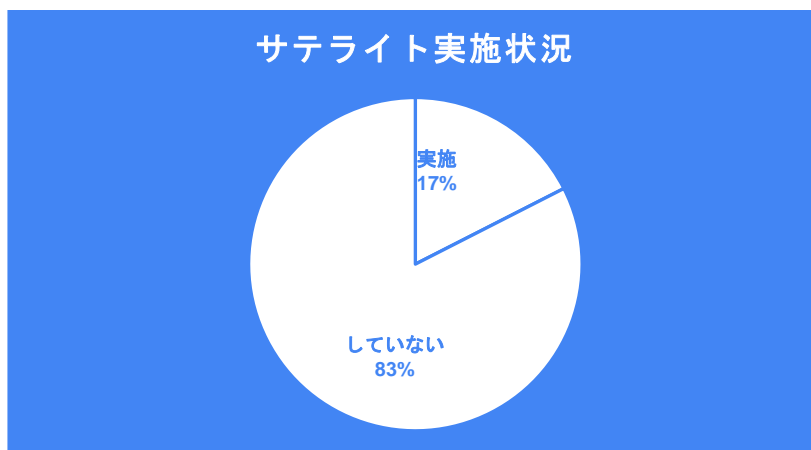
発達障害の併発通級児童数

併発あり	374 人
併発なし	835
合計	1209

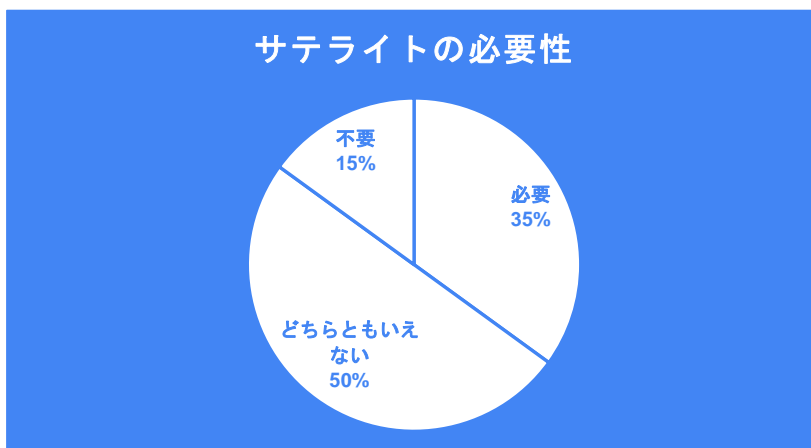
発達障害の併発



サテライトの実施状況	
実施	7
していない	33



サテライトの必要性	
必要	14
どちらともい	20
不要	6



サテライト指導の成果

- 児童の移動負担（距離や時間）を軽減できる。
- 通級児童に限らず、気になる児童についての相談を受け、授業参観や担任との懇談が随時できた。
- 自校で指導が受けられる
- サテライト実施校の児童は、サテライトを利用することで、遠方から送迎する保護者の負担軽減につながったと思う。
近隣のサテライト校を利用する児童は、自校へ戻るのが容易なことから、授業を抜ける時間が短くなるという利点がある。
- 保護者の送迎が必要なくなることで、通級しやすくなる児童が増えた。
学級担任と連携が取りやすい。

- 以前行っていたときには、保護者の事情で通えなかった子供が、通級指導を受けられるようになり、発音・言語発達などの改善がみられた。
- サテライトを実施していないが、保護者や児童の負担軽減が考えられる。

- サテライトは行っていないため一般的に言って、居住地の近くで通級できること

- 家庭の事情により通級が難しい児童に対し、安定して定期的に構音指導をすることができたため、正しい構音方法を習得することができた。
- 自校通級が増え、通いやすくなった。
- 現地で指導できること。
- 本年度は行っていないが、サテライト指導を行った場合、送迎が困難な児童でも、指導を受けることができる。
- 教育の機会均等
在籍校の特別支援教育体制づくりへの働きかけ
早期発見による早期対応
- 保護者が送迎できない家庭の子も通級できる。
- 実施できればより広範囲の児童への指導が可能になると思う。
- 保護者の送迎が必要ないため、おうちの方の都合で通うことができない子も確実に通ってくるができる。
担任の先生と週に1度は顔を合わせることができる。（担任の先生方は忙しくてなかなか話をすることは少ないが...）通級児童の教室の様子を観察することができる。
- 保護者の都合で通級できない児童の指導を保障できる。

サテライト指導の課題

-
- 担当者の負担（知育玩具等を含む教材教具の持ち運びや移動、それらについて忘れ物がないかという前日からの心因的圧迫。複数担当の相方との使用教具の調整、サテライト校での居場所のなさ、同じ市内なのにデータをサーバー保存することも許されないしUSBも挿せない、赤ペンの替え一つもらったり電話を借りたりにものすごく気を遣う）がとても重い。また、保護者の送迎がないため、保護者と顔を合わせるのが面談の時だけになり、その日の褒めポイントや進捗状況を伝えるチャンスが通級児に比べて格段に減る。（H30/R1と他校発達通級担当時に経験が有り）
- 教材の持ち運び、移動が可能かとの問題。サテライト先での指導の場所が確保できるかを課題と感じる。
- サテライトの教室環境の整備。特に指導に使用する機器のWiFi環境がないことがとても不便。
- 指導者の時間の確保（他児童の指導時館の確保）
- 保護者と情報を共有するのが難しい。
サテライト指導で学んだことを日常に般化させるという点で、在籍校や担任の先生方と連携を図りながら、保護者とのかわり方についても検討していきたい。
- 空き教室があるかどうか。
- 私道のための教材を毎回持ち込まなければならないため、担当者の負担が大きい。サテライト校用の予算が欲しい。
- サテライト指導を実施できる余裕が時間的にも物理的にもない。
- 実施していないので分かりませんが、移動時間がかかりそうです。
- サテライト校での子供の人数がある程度ないと、効率が悪くなる。担当者の負担が大きい。
- サテライト会場校の教室確保
- 通常の教室指導を行いながらサテライトを行うのが難しい。サテライト専門の教員の配置が必要
- 体制を整えるのに、どのような準備が必要か。場所や、教具をどうするか。（予想）
- サテライト実施校のWiFiに接続できず、インターネットを用いることができなかった。
- 指導者が働きにくい。環境を整えるのが大変。
- 指導する場所や教材が充実してイルことが必要であると思います。
- 担当者の移動時間がかかるので、その分指導時間が減ってしまうと予想されます。
- 移動により、活動内容に制限が生じる。
- 教材等を毎回担当者が持ち運ぶ大変さがある。本校を空ける日が多くなり、通級全体での打合せの時間がとりにくい。
- 保護者への働きかけがうまくできない。保護者の意識改革が図りにくく成果が半減しかねない。
- サテライト校の教室環境が整っていない。本務校に残る担当がいる場合、教材が二つ必要になる。
- 実施事例がないため、開設方法が分からない。
- サテライトの教室にすべての教材をもっていくことができないため、十分な指導ができないことがある。
言語はA小学校、発達はB小学校へサテライトに行っているため、本来は発達通級で見えてあげたほうが良い子も保護者が送迎できないために言語通級へ通っている現状がある。
- 保護者が指導の様子を見る機会が減る。

ICTの活用例

-
- もの、こと、動物などの名前など、子供の知らないことが出てきたときに、アイパッド（支給されていないので機材も通信費も自前）で調べて理解を深められている。構音指導では、舌の状況を撮影して児童と一緒に見返すことで、現状の把握や目指す姿との比較などができやすい。
- コロナ対応で通級が困難な児童にオンライン指導。クラスルーム等を用いた3者連携。
- オンライン指導
- 構音指導で、自声音の確認としてiPadの動画機能を使用。
緘黙指導で、『話がしたい』という目標に近づくための手段として、Google meetのリモート機能を使用。
市内ことばの教室で、リモートを活用して吃音交流会を実施。
調べ学習や教材としてアプリを活用。
- ICレコーダーを使って、発音している音を録音して指導に生かす。
市内の通級指導教室同士の合同研をオンラインで行った。
- iPadで構音時の口腔内を動画で撮影し、その場で確認できる。
- 自己モニターをするため動画を撮影して振り返る
- MIMを活用し始めました
- オンライン研修
- 教材
- MIM
- タブレットで教材を提示
- 教室でICT機器が使いにくい（ネット環境の不備）のため実施できません
- 構音指導での録音、録画。名称・事柄を調べる。
- 絵カード作成（スラッシュカードの代わり） 動画記録 ふりがなアプリ 音声録音
ひらがな・カタカナアプリ 言葉遊びアプリ kye note
- オンライン指導、児童同士のオンライン交流、調査学習
- 録画機能の活用（保護者に許可をもらう）
- 吃音勉強シリーズ ことたぶ ネットで学ぶ発音教室 NHK for school
- プレゼンによる発音・構音指導 番組、映画視聴、吃音ポータルサイト視聴、教室説明会での授業の動画公開
- MIMデジタル
- iPadの『ボイスメモ』アプリを使って、自分の発音をすぐにフィードバックして聴くことを通して、自分が正しく、または自分が思っているように発音できているかをチェックする。
- 知らない言葉を教える時、写真を見せたり動画を見せたりするのに使っている。「あいうえおにぎり」というアプリを、ひらがな・かたかなの入門期に使っている。
- ipad・・・構音の様子等を動画や写真で撮影し、子どもが振り返るための材料にした。
音声教材として使用し、聞く力の向上に役立てた。
わからない言葉や物の名前を検索し、語彙力向上に繋がった。
タブレット・・・オンライン指導（マスクを外すような構音指導の際に、教室と職員室で離れて指導を行った。）
Google ジャムボードやスプレッドシート等のアプリを使用した。
- SRのお子さんに、ジャムボードで短文作りを行った。
- 緊急事態宣言時にオンライン指導
調べ学習、画像検索、学習アプリの活用
- きくきくドリル、漢字の学習は、タブレットを活用しています。
- 教材での活用や保護者への説明
- 発音の練習にとりいれている
- タブレット（『きくきくドリル』・・・聞き取り、『美文字』アプリ・・・書字指導
- 「こえキャッチ～声で遊ぶボイトレゲーム～」LITALICO.Inc
- デジタル教科書の使用
聴覚記憶分野での市販デジタル教材の使用

- マスクを外して指導することが難しい時にあらかじめ舌や口の形を担当者が写真や動画に撮っておき、それを見せながら指導を行った。
音声教材をロイロノートに保存しておき、再生しながら録音することで復唱の課題を聞き直して指導に活用した。指導者の振り返りにも使うことができた。
まだ、他校通級の子どもたちはタブレットを持ってくることができないので、教師のタブレットを使って指導している。
- 音声入力機能を使い、ダラダラした文の話し方を文字化し、どうすれば短くてスッキリとした文章になるかをPC上で整理調整する。かるたのよみをDLして再生する。

後継者育成の工夫

-
- 言語通級1年目の自分のために、先輩が音ごとの構音指導法動画を作ってくださいいつでも確認できるようにしてください。先達が後輩にいつでもいくらでも相談に乗ってください。
- 指導法、指導教材の伝授。空き時間に指導児童の様子を観察して今後の指導の方向性、指導法を検討する。
- 外部研修の情報共有や教室内研修でのオンライン講演会等の試聴。週に1コマ、講師も含めた教室内研修の時間を設定した。
- 新任研修、室内研修
- 市内通級で連携し、定期的に新任研を行った。
ことばの教室の担当者が集まり、言語研も行っている。
他教室の参観。
全難言『はじめのいっぽ』の聴講
- 静言研などの研修で得たことを3人で共有し、指導の幅を広げるようにしているが、通常級の先生方とは、時間割も違い、交流する時間も少なく、後継者の育成には、つながっていないのが現状。
- 月一回 ST の来校の際に、アドバイスを頂いたり専門的知識を学んだりした。
また、日常から指導方法について担当者同士で共通理解している。
- データの保存場所を項目ごと、時系列・重要度順などで整理している。引継ぎの際データフォルダを見ればある程度年間の仕事が見通せるように。
必要な書籍や教材・教具を共有で管理している。また、指導者間で指導経過報告書の読み合わせ等を行い、随時研修を行っている。
- 常に困ったことは相談してもらえ人間関係を作り、指導が難しい時には一緒に指導に当たり、実際に指導のしかたを見てもらう。
- 市教委主催の研修会を増やしていく
- 担当者養成のため、ベテラン指導教官による研修・授業への参加を試行した。
- 研修時間を設けている。
- 部内研修での事例検討、市教委・静言研・親の会等への提出文書の共有
- 週1回、研修の時間を設け、書類の書き方を確認したり、指導をしていて困っている事例について話し合ったりしている。
- 夏の校内研修で校内の先生向けに教室の説明を行った。また校内の先生向けに一日授業公開日を設定し、指導の様子を見学してもらった。
- 事例検討会。市内又は近隣の病院の言語聴覚士との研修会。
- 市内で様式の統一（通知文、指導計画） 市内の担当者研修 通級部会 通級通信
- 静岡市や教室内での研修
- 令和5年度からの学校統合を見据え、校内外に広く呼びかける。
- 効果的な教材について教えあっている。
- 研修の充実、講習会のオンライン研修、外部講師による研修
- 定期的な校内研修の実施
- 校内に実践していることを紹介（通信）することで興味を持ってもらう。
- 前任者から引き継いで2年目、自分が学んでいる途中なので、姿も見えない後継者を育成することなど、まだ考えていない。
- 通級指導教室のPRにつながる広報活動。
- 校内研修で通級指導について話したり、担任参観週間でも他校の先生に通級指導について知ってもらったりするように努めた。夏季休業中に通級内で構音指導について教える機会をもった。
- 同じ地区内で新人研修を行っている。
- 育成枠の加配の教員と一緒に教材研究をしたり、TTの後に事後研をやったりしている。
- 市の通級担当者の研修体制づくり
- 言語通級の授業で実践していることを、校内の特別支援便りで紹介する場を設定しています。お便りの内容を紹介することで、本校の若手教員が、通級指導教室に興味・関心をもってくれたらと思います。
- 本市だけでなく、近隣の市の先輩の指導を参観させてもらうようにしている。
- 通級言語指導教室だよりの作製
引き継ぎ資料の作製と更新

- 指導経験のあるOBの先生にボランティアで来ていただいたり、市の予算で指導経験のある先生に支援員として入っていただいたりして、助言をいただいている。
- 特になしだが、特別支援教育の情報発信はしている
- 市内の教員に対し、通級の授業を参観する日を設ける。（出張で参加できるように市教委と調整）

希望する研修

-
- 言語通級担当として、はじめのいっぽで登壇された講師
- 谷哲夫先生（聖隷クリストファー大学）
 - 西田立郎先生（言語聴覚士）
 - 山下夕香里先生（言語聴覚士）
 - 上里 聡先生（こうざと矯正歯科クリニック 歯科医師）
 - 山田有紀先生（こうざと矯正歯科クリニック 言語聴覚士）
 - 小林宏明先生（金沢大学）
 - 富里周太先生（国立成育医療研究センター 耳鼻咽喉科医師）
 - 菊池良和先生（九州大学病院 耳鼻咽喉科医師）
 - 堅田利明先生（元大阪市立総合医療センター小児言語科 言語聴覚士）
 - 海津亜紀子先生（MIM開発者）
- 吃音、緘黙、LDの当事者。
 - 上田耳鼻科の先生。先日の講演がとても良かった。
- 通級指導教室野心構え
- 希望講師
 - 福井大学子どものこころの発達研究センター発達支援研究室の友田明美先生
 - 大阪医科大学LDセンターの奥村智人先生
- 言語発達遅滞や読み書き障害の子供に対して、学習語彙を増やす方法や支援の方法を知りたい。音韻認知を高めるための遊びやゲームがあれば知りたい。（しりとり、連想ゲーム以外で）
- 構音指導の研修
- 山本ゆかり先生 舌の運動について
- 今さら構音指導と思われませんが、ぜひお願いしたいです。
- 構音指導（山下夕香里先生）
- 石間志津代先生 構音指導の実践・実習
- サテライトやオンライン指導の実践報告。
 - 他県の入級退級基準。
 - 年間指導時間の根拠（下限の見直し等）。
- 吃音 菊池先生の講演（再度）
- 今年度のようにYou tubeで視聴できる形だと、自分の都合の良いときに研修することができて参加しやすい。
- 応用行動分析的な子供への対応、子供の見立てに関する研修
- 3回の定例研のうち、1回は指導力アップのために構音指導又は吃音指導、あるいは言語発達遅滞の指導について講演会・研修会を入れてほしい。
 - 構音指導：山下夕香里先生、西田立郎先生、西部地区で指導されていた松下剛先生。
 - 吃音指導：伊藤伸二先生、小林宏明先生、菊池良和先生、富里周大先生。
- SR AD St についての最新情報。具体的な指導事例。（すぐに指導に生かすことができるとありがたい。） 発達障害についての研修
- 中川伸子さん 宮口幸治さん
- 山下夕香里先生、田中裕美子先生（R3を受け、さらに具体的な内容を希望します）
- 言語発達の遅れや問題に対する指導方法を教えてくれる方
- 構音、吃音の指導についての講習
- 異常構音の指導
- 諸富祥彦先生 菊池良和先生
- 協調性運動障害について
- 諸富先生
- カウンセリング
- 通級指導教室の経験がある先生に、実践紹介を含めてお話していただけたらと思います。
- 口腔外科の専門医（口唇口蓋裂、舌小帯短縮、下顎前突出症などの口腔の状態と治療等）
 - の講義（知識向上のため）
- 田中裕美子先生の第二弾を希望します。
- 構音指導に関する講座（検査の仕方、指導方法、指導例など、初めて担当した者でも安心して指導が進められるようなものであると助かります。）
- 分野別、少人数グループによるテーマ討論や自由討論の研修

- 吃音について学びたいです。
- 愛着障害について 米澤先生
- 言語通級の担当だけになりますが、構音の指導法の基本をもう一度研修したいです。
- おまかせします。ただ、今後もオンラインでの研修になるようでしたら、出張の扱いでその日にライブで行う、または映像を見るという形にしていきたい。通常の勤務時間内に2時間近い講演を視聴する時間を作ることができない。（かと言ってそのために通級に授業をなしにするのは申し訳ない）

ご意見等

○

- 学齢3人、幼児3人、計6人の指導者に対して、指導個室が3部屋しかなく、プレイルームやオープンスペースの一角、旧パソコン室を区切ったコーナーをローテーションで使ってのいであるが、防音でない場所では当然音漏れや、周囲からの雑音があり、構音の指導や保護者との教育相談などで困っている。

放課後しか希望しない保護者が多く、朝一番の枠と、昼以降夕方まで入れ替わり立ち替わり指導が続く。当然その日の記録や次の指導構想・準備はそれ以降となり、帰宅が遅くなっている。次の日の午前に余裕のあるときにはそこを使うこともできるが、幼児相談が大変多く、要請に応じて学齢担当も行うため時間に追われている。

あと、、、教材を購入する予算が足りない。本教室は、幼児教室も併設されているため、学校教育課ではなく福祉の方から予算がついていたり、静言研の幼児補助金があったりして賄えているが、もし学齢単独だったら、市内の発達通級同様カツカツで運営に支障が出ると思う。予算的なものはタブー視というか、それぞれの市町の事情が、などあると思うが、一度実情を調べてみてほしいと思っている。発達通級が静言研を離脱している一つの要因の中に、言語通級は（実際は幼児言語）潤沢にお金をもらっているのに、発達は・・・というもやもやがあるのは事実だと思っている。（数年前の発達通級での経験→市からの予算では、紙4締めとプリンターのインクとうがい用の紙コップとクリアファイルと、聞き取りの本で終了。 玩具を買うことなどで、自腹で教材の本や玩具を試し買ひして、使えそうなものを次年度の予算要求に挙げる、ということを使命感だけで続けていた。足りない、と訴え続け苦しかった。言語には「補助金」というものがあるようだ、なぜ言語だけ・・・と当時正直思っていた。）

- 3担当だが、指導室は2部屋しかない。3人の指導が重なるときには、現在該当者がいないリソースルームを使っているが、該当者が出ると使えなくなってしまう。

○ 講師の指導体制

研修の時間の確保をしていただきたいと思います。

- 新しく研修しないとならないことが多く、担当になった時の負担が大きいので、持ち時数が20～22人くらいになるようになっていったらありがたいです。

- 学校が統合する話が持ち上がり、通級指導教室が移動することになり、移動先や設備のことなどで悩まされた。結局、統合の話が保留になり、教室は移動しないことになったのでよかったが、新設するとなると、どんな設備が必要なのか担当者だけでは分からないことが多く、とても不安になった。

- 教室運営に係る公文書等、よりスマートにできたらよいと考えている。また、言語に関する教育相談も担っているが、それが持ち時数にカウントされていない実情を知ってもらいたい。相談業務は、相談の前後の事務作業も含めるとかなりの負担になっている。

- 授業時間が増え、下校時刻も遅くなっているのに、勤務時間内に指導が終わらないケースも出てくる。また、遠方より通う子もいる。教室を増やすまたは、教員（担当者）を増やすなどしてほしい。

- 通級担当の仕事内容を知らない職員が多いと感じる。せめて管理職には熟知していただきたい。校務分掌が重かったり、引率や助勤などの仕事を多く入れられたりするのが負担である。勤務校が小規模のため、仕方がない面もあるが、当然のように思われるのは心外である。

- 年々、授業日数が増え、主に放課後通級児がほとんどである言語通級教室では、指導時間がどんどん遅くなり、現在、毎日勤務時間外に指導を1コマか2コマ行っている状態である。なのに、昼間は時間が空いてる教員として見られ、校内では助勤要員として扱われていて、勤務体制を理解されてないと感じている

教室でのネット接続にかなり制限があり（子供用のタブレットでのみ使用でき、使えるアプリの限られる）、指導にも在籍校への連絡にも不便をきたしている
発達障害傾向を持つ子の相談が激増している。LDを勧めていきたくても、すでに空き待ちの状態で入級できない。LD通級の増設か、LDと言語の合併が必要。

- 言語の簡易検査資料が改訂版が欲しい。

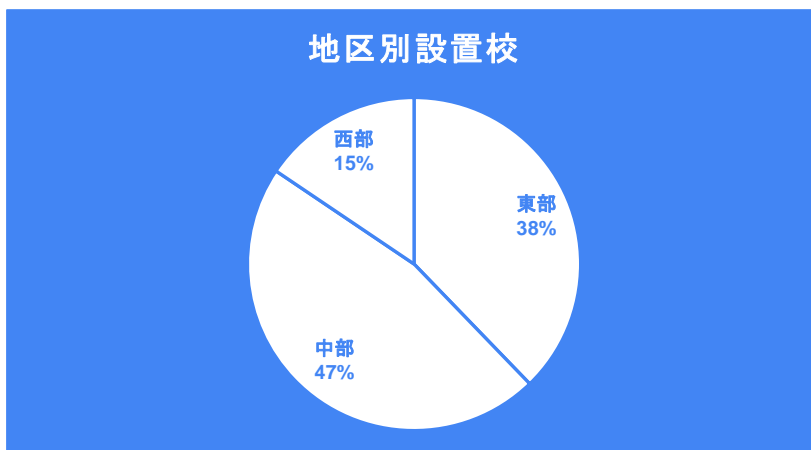
- ・必要な教材・教具を希望してもなかなかはいらない。予算を回して欲しい。
・すぐに欲しい定額の教材を買うお金も無い。ことばの教室で学年費のように使える予算が少しでもあるとよい。

- コロナの感染が拡大しているので、空気清浄機を設置してほしい。 直通電話の設置

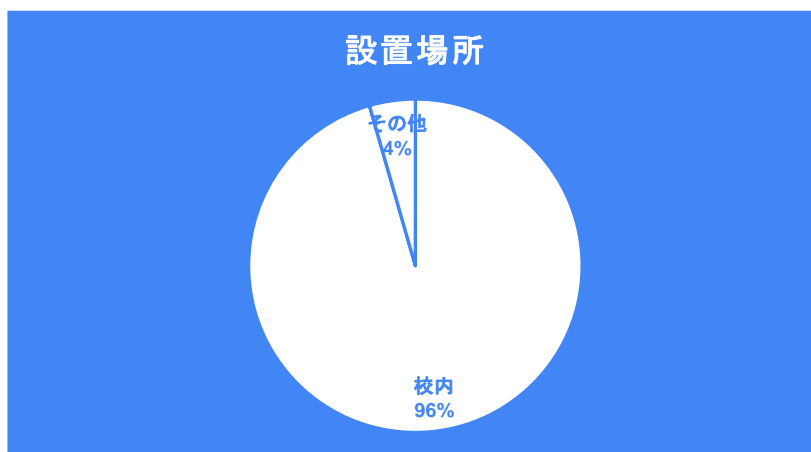
- 研修（担当者交流）の場が制限され、少なくなっていることにより、孤立化を招いている。
- ・指導児童が多く児童時間だけでも多くの時間を使っている。それ以外の時間で各校との調整・連絡や書類作成等も行っているため、勤務時間内ではとても仕事が終わらない。勤務体制を見直したい。
- コロナ禍での指導について大変苦慮している。ことばの教室はどうしてもマスクを外すような指導が必要になる時があるため、感染拡大時期はマスクが外せないで指導がうまく進まなかった。
- 校内研修への参加や、分掌の多さは課題となっている。
- 今後、オンラインの研修会が増えていくことは、メリットも多いと思います。しかし、対面式の出張が、皆無になることはさみしいなと感じています。大規模な研修会はオンラインで、地区ごとの研修会は対面式で、お互いのスキルを高め合う研修会ができればいいなと思います。
- 通級でも、保護者から、オンライン指導の要望がありました。環境として、オンライン指導ができない状態にあるため、整っていくと嬉しいです。
- 講演会はこれからもオンラインで行ったらどうか？オンラインの方が有意義だと感じているし、定例研を減らすことも出来る。
発達の方科会を増やすべき
東海四県必要？負担大き過ぎない？
- 長く担当を続けたいので、異動の心配がないようにするとよい。
- 保護者の送迎がうまくいかずに通級が必要であるにも関わらず断念しているおうちもあることが通級の担当になって分かりました。
サテライトは空き教室を使っていることが多く、窓がない教室ということもあるため、換気を十分にできていないとコロナ禍で不安にさせてしまうかな、と思うことがあります。扇風機等を使ってなんとか換気しています。
言語通級と発達通級でサテライトに行く学校が違うため、発達通級に通いたいのに言語のサテライトしかないから通えないとか、その逆とかがあります。両方ともサテライトにいければいいのには思いますが、担当者の負担もあるので難しいです。

小学校発達まとめ

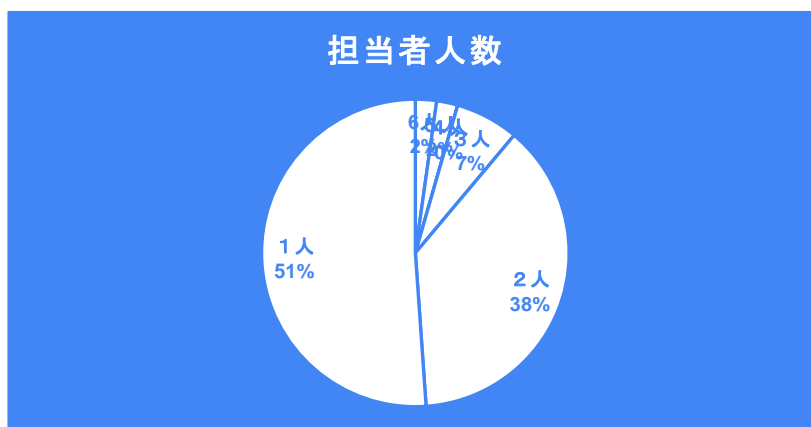
地区別	
東部	17 校
中部	21
西部	7
合計	45



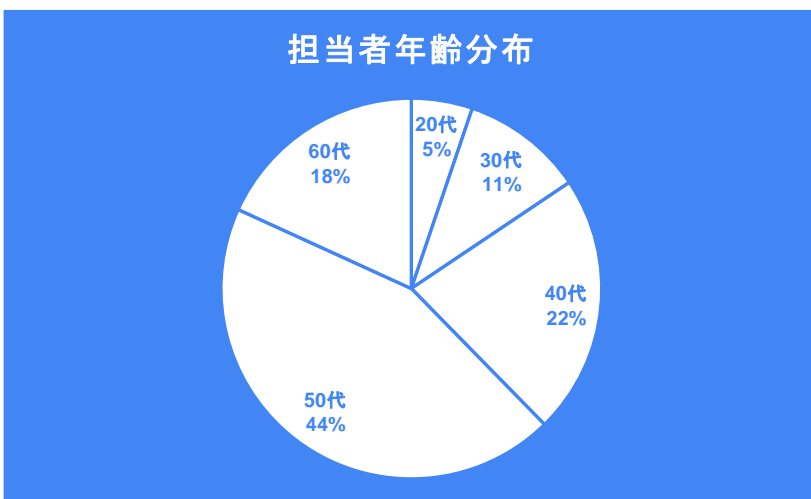
設置場所	
校内	43 校
その他	2



担当者人数	
6人	1 校
5人	1
4人	0
3人	3
2人	17
1人	23

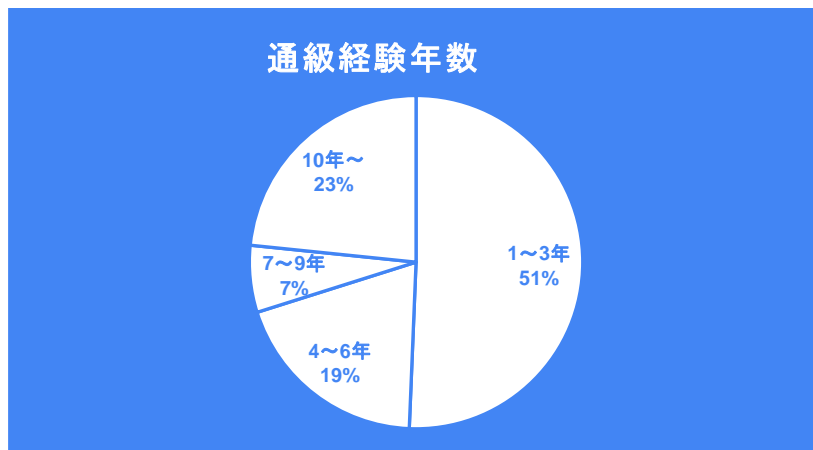


担当者年齢	
20代	4 人
30代	8
40代	17
50代	34
60代	14
合計	77

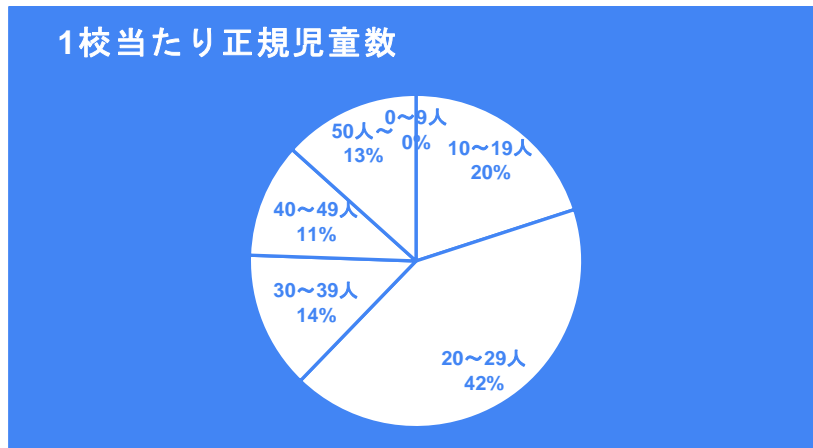


※会計年度職員
3人は
すべて60代

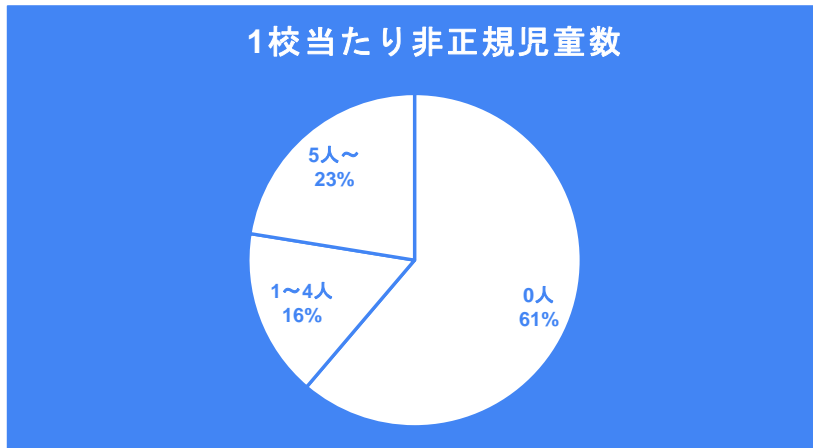
経験年数	
1～3年	39 人
4～6年	15
7～9年	5
10年～	18
	77



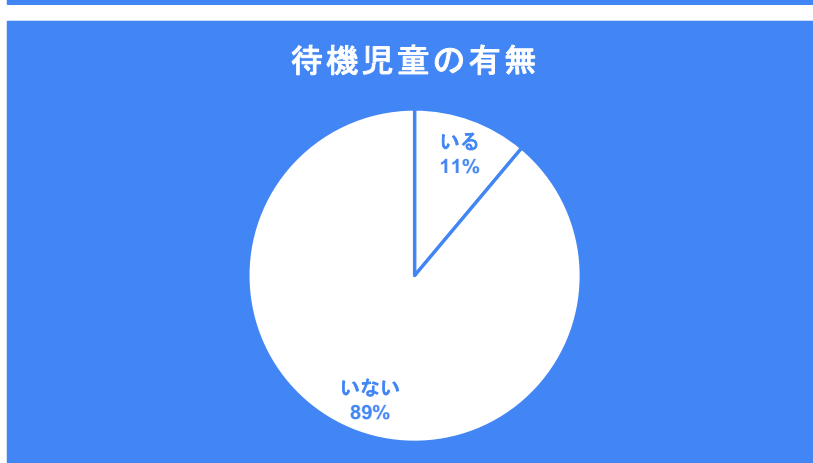
1校当たりの正規指導児童数	
0～9人	0 校
10～19人	9
20～29人	19
30～39人	6
40～49人	5
50人～	6
計	1425 人



非正規指導児童数	
0人	30 校
1～4人	8
5人～	11
計	93 人

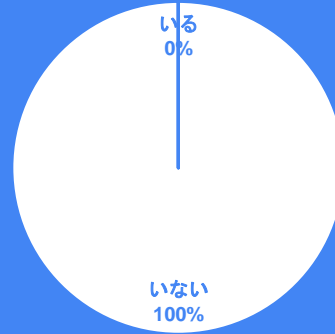


待機児童の有無	
いる	5 校
いない	40



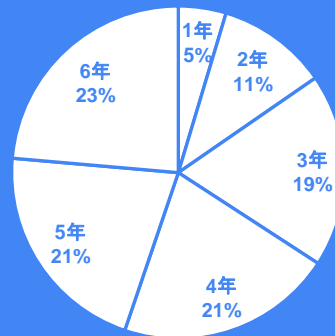
他町から受入れ児童有無	
いる	0 校
いない	45

他市町からの受け入れ児童の有無



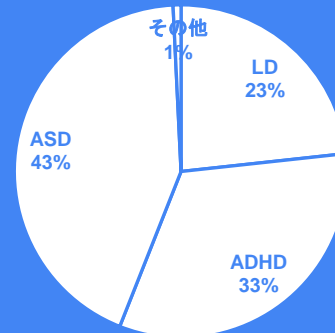
学年別通級児童数	
1年	72 人
2年	167
3年	292
4年	327
5年	329
6年	367
合計	1554

学年別通級児童数



障害区分別通級児童数	
LD	365 人
ADHD	513
ASD	678
その他	12
計	1568

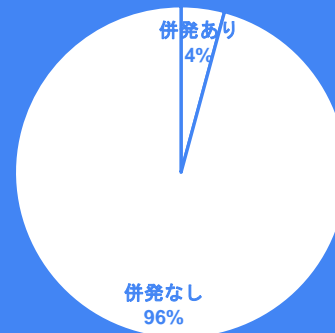
障害区分別人数



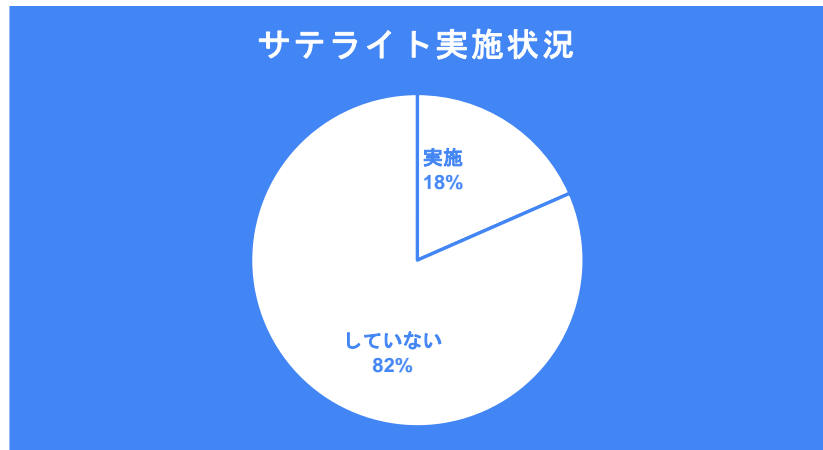
※合併が14人
いることになる。

言語障害の併発通級児童数	
併発あり	66 人
併発なし	1502
合計	1568

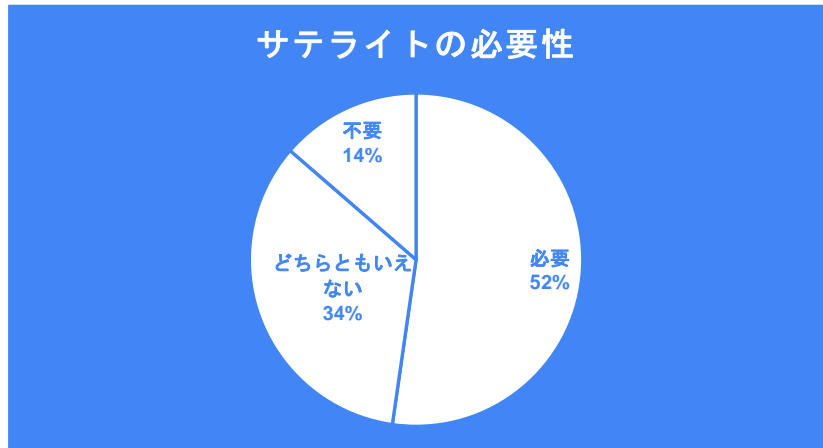
発達障害の併発



サテライトの実施状況	
実施	7
していない	31



サテライトの必要性	
必要	23
どちらともいえない	15
不要	6



サテライト指導の成果

- ・保護者の都合で送迎できず通級できない子にも指導ができる。
- ・多くの学校に通級指導教室を理解してもらいやすい。
- 保護者の送迎の負担軽減、学級担任との連携がしやすくなる。
- 保護者の負担が減る
- 中央小よりもサテライト校の方が近くて保護者の負担が少ない。
- ・サテライト校の担任、コーディネーターと連絡、連携が取りやすかった。
- ・児童の在籍学級での様子がリアルタイムでわかり、困った時の対応が素早くできた。
- ・母親や担任からの相談に直ぐに対応できた。問題を確認し、通常学級でどのような手立てを講じるか相談しながら進め、成果を見ることができた。
- 指導児について直接教頭教務に伝えることで情報を共有できた。
- 在籍項の連携、指導時間の保証
- 定期的に指導ができる。児童が集中しやすい。放課後よりも疲労がない。関係職員との連携が深まる。学級での様子を観察しやすい。
- 個別指導が必要な児童にとっては、自校で通うことができるため負担が少なくて良い。
- 学級での児童の様子を参観したり、担任・コーディネーターと情報交換したりしてこまめに実態把握することができた。課題や指導内容について共通理解することができた。
- 保護者が時間を確保できない児童への指導ができた
- ・指導回数が確保でき、本児の成長や成果に結びついた。
- ・送迎の負担がある家庭や新規希望者も入級に結びつけることができた。
- ・サテライト対象の通級児以外の通級児の学校生活の様子を把握できたり、担任と情報共有ができ、指導方針の共有を常にできた。
- サテライトでなければ送迎の都合で通えない子が通えた。
- 担任と迅速に情報共有ができた。
- 保護者の負担軽減 在籍学級の担任やコーディネーターと連絡が取りやすい。
- 職員の理解が進んだ。
- 保護者の送迎がなく、自校で指導できること
- 児童の所属校での様子を知り、指導に生かすことができる。また、担任と毎回情報交換できる。
- 送迎を理由に入級を断念するケースをカバーすることができる。

- ・前後の時間の移動がないため、在籍級での授業を抜ける時間が指導時間だけになるので、在籍級の保護者の負担も少なくてすむ。
 - ・サテライトの1日の終わりで、ファイルを受け渡す際に、担任との情報交換ができる。
 - ・他校から設置校に来校の際、「違う学校の子がいる。」と思われているのではないかと意識して渋る子がいる。また、保護者の都合がつかず送迎できなくて休む子もいる。サテライトではその心配がない。
- 保護者の送迎がいらないので、個別指導を必要としているより多くの子どもたちを指導することができる。
- 在籍校担任とタイムリーな情報交換ができること。
- 毎回担任と直接情報交換できる。児童にとっての自校で受けられる。
- 送り迎えの問題で通級できない問題が解決できた。
- 在籍学校での児童の様子がわかる。保護者の送迎や長時間在籍学級を抜ける児童の負担の軽減。

サテライト指導の課題

- ・サテライトに行った先の学校の受け入れ方（職員の理解、通級担当の位置付けなど）や、環境
 - ・サテライト担当の大変さ（教材、時間のやりくり等）
 - ・サテライトで指導している子の保護者との関わり方の難しさ
 - ・サテライトを行う通級担当の本校での環境（2人担当なのに教室がひとつしかない、机がひとつしかない、など）
- 教材等の準備の負担増、保護者との連携が減る。
- 担当の負担が大きい
- ①本来ならば、1学校、1教室、1担当が理想。週1日しか行っていないので、サテライト校に近くても、曜日が合わずサテライト校に通えない子もいる。②担当者が、毎回教材の持ち運びをすることがなかなかの負担。
- ・高学年の児童は、友達の目を気にして通級の指導室に入ることに抵抗感が強かった。
 - ・教材の持ち運びが大変であった。
 - ・使用教室の広さによって学習内容が限定されてしまう。粗大運動ができにくい。
 - ・サテライト校に勤務として出向いているので、勤務形態を調整するのが難しかった。

- 指導児が教室での授業を受けたいと希望することが何度もあった。在籍学級担任はサテライト指導を参観できなかった。
- 保護者の参観、グループ指導ができていくこと、
- 指導の様子を見にくる回数が少ない家庭と連携が取りにくい。落ち着いて学習できる教室を用意できない学校もある。通級指導の部屋がエアコンなし、隣から音楽の授業の大きな音がする、着替えや作品保管の部屋になっていて人が頻繁に出入りするなど、学級よりもかえって環境が悪いこともある。
- ・指導の様子を保護者に参観して頂くことができていくため、情報共有が難しい。
 - ・本務校と比べて、サテライトの教室環境は整っていないため、活動に制限がある。
 - ・校務用のパソコンが使用できないため、仕事がやりにくい。

- 保護者とのやりとりの場を十分用意することのできない家庭もあった。
- ・指導を参観できない保護者もあり、家庭での様子を聞いたり、情報交換したりする機会が得られなかった。
 - ・サテライト以外の通級児の行動観察をしたかったが、時間の確保が難しかった。

- 自校に比べて担任と話す時間が取れない。保護者と連絡がとりにくい。
- 保護者との連携がしにくかった。（サテライトでない場合、保護者が送迎の際に話をする機会が多かった。）
- 通級をしていることを知られたくない児童には負担
- 荷物をたくさん持って、担当が移動しなくてはいけないこと。
- 教室、備品の整備。教材や児童の資料の持ち運びが大きな負担になると予想します。通勤手段が徒歩やバス、電車などの教師にとっては、一日の指導に使える教材類を全て持って移動することは困難です。通級設置校を増やしてほしいところです。（本校では現在サテライトを実施していませんが、回答者の過去のサテライト経験から書きました）
- 職員との情報交換
- 担任との連携
- 指導者が両方の学校の教育課程を把握したり、移動したりするのが大変。
- 移動時間を考慮した日課・時間割の調整が困難。
- ・教材を準備する際、設置校と同じように作って準備しても、持って行く際に過不足を把握しづらい。
 - ・サテライト日以外は、サテライト教室を別の用途で使っている。（大事なものは鍵のかかるところに置いてあるが・・・）
 - ・サテライト日に学年行事が組んであっても、担当や保護者が知らなかったため、時間になっても子供がサテライトに来ず、教室や職員室に確認に行ったことがあった。保護者は仕事を抜けてきているので、連絡は必ずほしい。（現在校ではないが・・・）

- 教材を持って指導に行かなければならないので、担当者の負担が大きい。保護者と話す機会が減る。
- 教室環境を整えること。
- 本教室と同じ設備ができない。都度旅費が発生する。
- 環境整備（予算的なもの）
- 担当、担任、保護者等の情報の共有化が難しい
- 指導のための教材や教具などが十分に用意できない。保護者控室がないなど、教室環境が適していない。

ICTの活用例

- ロイロノートを使って書字の困難さを緩和する指導、ローマ字入力をスムーズに行うための指導
- ・入力練習
- NHK for schoolの活用、MIM教材の活用
- 教材（MIM、デージー教科書等）
- ・MIMIによる平仮名、片仮名指導
- iPadのアプリを使っでの指導
- ①担任と：Teamsを使って校内の通級児童の担当と通級時間や簡単な児童のことについて連絡しやすくなった。まだ他校とは個人情報などが関係するため活用していない。②個人iPadを使って：ちょっとした間に漢字計算などのアプリを活用。③掛川市は自宅に公のマイiPadを持ち帰るようになってきたため、予定や宿題の配信をおこなうようになってきた。そのため通級児童がかなり楽になった子もいる。④公のマイiPadを使って、key noteでテスト、漢字練習アプリの活用、作文でワープロ機能（ワード・メモなど）を使い、音声入力も活用し作成。
- 学習アプリ：あんざんマン、算数忍者、キッズ・ブレイン・バランス、漢字忍者
- ・MIM
- タブレット端末を使用して音楽を流す。
- クロムブックのクラスルームの活用
- 動画を撮影し振り返りで価値づけ。わからない言葉を画像検索し言葉と写真を結びつける。音声ペンを使って読み上げ支援。学習アプリを使って繰り返し学べるようにする、消す手間を省き集中力を持続、選択問題で楽しんで学習など。
- 藤枝市は児童用タブレット（一人一台）に「MIM」がはいています。
- 「きくきくドリル」のCDをタブレットに保存し、タブレットで聴くトレーニングをしている。
- クロムブックのユーザー設定、タイピング練習
- 感染症予防で対面での指導ができないときのオンライン指導
- Googleフォームを使用したSST、教室間オンライン交流など
- Webサイト【読み聞かせ】絵本ひろば
- teamsを利用してコロナ休校中に指導を行った
- クロムブックのGoogle meetを使って、グループ指導や担任参観を行った。
- キーボード入力 オンラインの準備 MIM
- デジタルMIMを使用。ワードなどを使った作文指導
- YouTubeの活用
- 指導公開や通級児童の保護者会などをオンラインで行った。
- オンライン授業、学習のツール、教材など
- 〈指導への活用〉
- 暗算練習のアプリ
- Chromebookを使っでのファイル共有、担任との連絡
- Chromebookを使って、読み書きアプリをする。
- 教材として、ネット上の視覚認知トレーニング用動画などを主に活用。
- ・日記を書くときに、場所や様子の思い起こしにグーグルマップのストリートビューを使っている。
・クロムブックの音声入力。
- デージー教科書の活用。対面が難しかったので、クロムブックを使い「中学生に質問」というコーナーを作り、小6生が中学のことについて質問し、中学通級の生徒がそれに答えるという取り組みをした。
- 教材
- ローマ字入力、マインドマップの活用（アプリ）、音声教科書（デージー）、録音・録画（運動の動きなど）
- EduMall ミライシード（ドリルパーク、学習探検ナビ） YAHOO!きっず
- iPad：筆順辞典、美文字判定、eDocReader
- 漢字や計算のドリル学習にアプリを使った。

後継者育成の工夫

- 経験ある教諭の指導を見て学べるようにしている。よい教材を共有するようにしている。月に1回、市内の通級指導教室担当者会議を開き、様々な情報交換をしている。
- ・通級指導教室の指導の参観を、多くの先生方に促す（他校でも通級児童の担任に参観してもらう等）
 - ・通級担当が、他校の通級の指導を見せてもらったり、事例検討を行う（市教委主催の研修で）
- 市内で月1回の担当者会議を行い、教室経営や教材の研修を行っている。
- 指導履歴を残しています。
- 定期的に市内の通級担当が集まり、情報交換。
- ・教材、指導に関する相談
- 情報発信
- 指導内容と指導資料、提出書類がわかるように整理しておくこと
- ・とにかく一緒に見る聞くやることで引き継ぐ。（学校訪問・電話での会話・ペア指導など）
 - 小笠地区の担当同士で話す。
 - 小笠地区の不易を作る（文書形式）。流行を作る（互いの指導の参観）。
 - 小笠地区通級通信（年に1回 保幼小中行政関係機関に配布）に、担当1年生の記事を載せ、担当をやりたくなるような内容や表現いっぱい文書にした。
 - 担任や保護者の役に立つ機会をひとつでも多く持つことで担当の専門性を多くの方に知ってもらえるように心がけた。
- 一番困っている所です。
- ・通級室内での研修会を行う。
- 育成枠として配置されており、日々の指導の中で研修を行っている。ベテランの教員の指導を参観したり、助言等をいただいたりしている。
- ・校内の学級担任の先生方に通級指導の公開授業を行った。
- 通級指導教室便りの発行
- 毎日、指導前指導後の共通理解の場を設けている。指導の検討、児童理解、保護者理解など
- 市内の通級教室で定期的に研修を開催している。通級に限らず特別支援に興味のある先生方のグループLINEで情報発信。若手の通常学級担任に通級の魅力を感じてもらえるよう有意義な情報や教材はどんどん共有する。そして今後通級担当を希望してくれる人材を増やす。
- 藤枝市は、青島北小学校に育成加配教員が1名加配されました。
- 担当者が異動する可能性がある時は、年度内に通級の授業の様子を何人かに参観してもらう。
- 自分たち自身が後継者です。
- 市内の通級指導教室で新任者を対象とした研修を合同で行った（オンライン）
在籍校訪問を複数の担当者で行ったり、サテライト指導の曜日をずらして、様子を見に行けるようにした。
静言研の定例研などの視聴動画をなるべく一緒に見て、話をする機会を作った。
- 毎週、曜日と時間を決めて話し合うようにしている。
- 担当者が立ち上げた研修会を年6回開催している。
- 通常級担任の先生方に特別支援の情報について発信している
- ・月1.2回、新任者へリモート研修を行った。
- 私がさせていただいて良かったのは、私が児童役になり実際に指導をしてくださったことです。担当側から、児童側からいろいろ見えるものがありました。
- 指導年数が短いため、育成というよりは、ベテランの先生に教えていただいたことを着実にできるように努力しています。
- クラスを増やして、後継者を育てる。
- 授業参観、アセスメント、手立ての工夫などの話し合い、相談
- ・2人体制で、できる時間には2人が一緒に指導を行うことで指導の流れをつかんだ。
 - ・資料の提供。
 - ・保護者面談や在籍校訪問などは必ず2人で対応した。
- 市内の担当者研修会
- 指導記録を残すこと
- 若い先生方と特別支援児童への支援を話し合う。
- 通級指導教室立ち上げからようやく4年が経過。後継者育成の前に、誰を後継者にするか、どのタイミングで引継ぎを行うかが側近の課題。やはり、一人体制では難しい。
- ・新規に教室を開設した際、先行して通級を行っている先生から、教材や授業を見せもらった。静言研の出張の際にも、様々な情報をもたらしたり、悩んだとき、困ったときなど、相談に乗ってもらっている。（現在3年目で、自分自身が教わっている最中。）
- 特にしていないが、特別支援に関する啓蒙、研修会を全職員に行っている。後継者育成は教育委員会任せになっている。

- 市内の担当者同士で定期的に研修を行っている。指導を公開し、お互いに指導の様子を参観する機会をもつ。
- 2学級あるうちの1学級の担当は通級初任。授業参観、質疑応答、情報交換を行なっている。
- 支援内容や書籍の紹介
- 今年度、新任担当者は、通級15時間、特別支援学級の授業6時間、計21時間の級外として配置することで、前期7人、後期9人と段階的に担当を増やした。また、新任が新規児童を担当し、最初の一週間は継続の児童の授業を見学して研修してから1週間遅れで新規児童の授業をスタートさせた。
- 若手研修・担任研修開催、職員会議での情報提供、ケース会議参加
- 一人担任のため、個別の指導計画、授業記録、入退級の書類、教室経営の資料などをしっかりと残し、引き継ぐこと

希望する研修

- STRW（アセスメント）研修 経験有る通級指導教室教諭の巡回指導（夏目徹也先生等） さくら眼科の先生の講演（本年度、大変勉強になりました）
- LD傾向の子への指導について
- LD児への指導について
- 川上康成氏による講義
- 安住ゆう子さん
- ・認知行動療法に関わる研修
- ・文科省の指導要領の自立活動について話を伺いたい。
- ①LDの子がよくなって通級を終了した例。
- ・LDへの対応
- 身体の使い方がぎこちない児童に対する指導
- 事例をもとにした指導方法について
- 立命館大学 宮口幸治先生
- 中邑賢龍先生、井上賞子先生
- 場面緘黙、愛着障害など、ひとつのテーマについて深く学ぶことができると嬉しいです。
- 発達通級のトレーニングメニューのいろいろ
- ・初めて通級担当になった人への研修
- 同時者の方の話を聞きたい。
- コグトレの宮口先生、望月小児科のドクターのお話
- ・就労している当事者さんの話を聞きたい。
- LDの研修が充実することを希望します
- ・大六一志先生
- 境界知能（発達の特性が比較的軽い、知的に近い）の子どもたちへの通級での支援

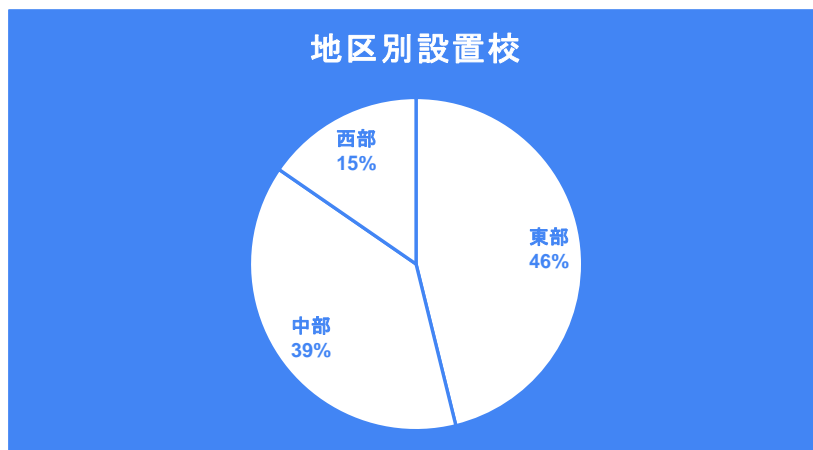
- 中学高校通級について
- LDの児童への具体的な指導方法
- 身近なアセスメントと具体的指導
- 宇野彰さん 筑波大学人間系教授。NPO法人LD・Dyslexiaセンター理事長。発達性ディスレクシア研究会理事長。
- LDの指導について
- LD、ASD
- 主訴に応じた指導事例。実践報告。
- 常葉大学の赤塚先生
- 先日講演会をしていただいた坂本條樹先生にもっとお話をうかがいたい。
- ICTを活用した指導例や合理的配慮の実践例などを知りたいです。
- 個別の教育支援計画・指導計画を活用した指導の実際について
- いつも勉強させていただいています。特にありません。
- 教材紹介、情報交換
- LDやASDなどの学習方法について等
- 実際に授業を見るのは児童の負担になるので、ビデオ研でもいいので、いろいろな先生方の授業を見たいです。

ご意見等

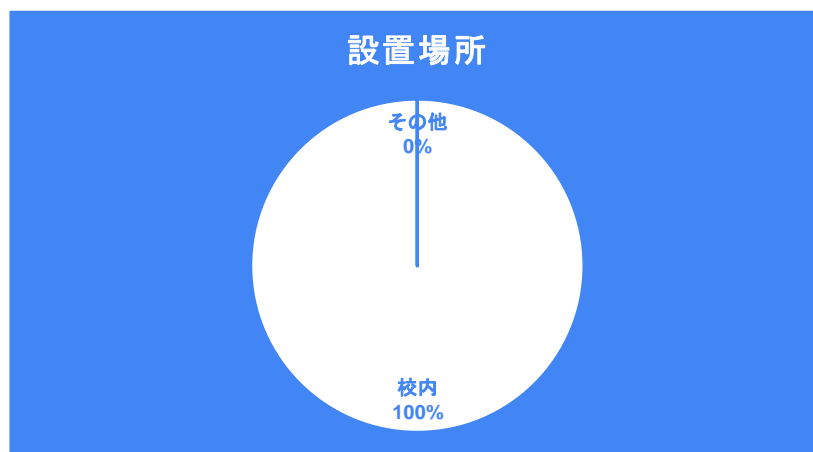
- ・校内での分掌が多くて大変
- 加配ではなく、早く定数制になってほしい。
- ・通級設置校、通級担当者をもっと増やしてほしい
- 通級について 通級担当・経験者以外の教員に知られていないため 情報発信していくことが必要
- 県事務局の皆様、役職担当の皆様、いつもお忙しい中ありがとうございます。このア
- 文科省の基準（教員一人あたりの担当児童数13名）に、できるだけ早く近づけてほしいです。
- 自分の学校ではないが、同じ町内の学校の担当者が、来年度30人担当することになったが、学級数は増えないそうである。一人で30人も担当するのは無理なのに、学級数が増えないとはどういうことか。何人なら学級数が増えるのか。
- ・通級のWIFI環境を整える
- 静岡市は週12時間勤務の会計年度職員を担当にしているが、その担当者の研修がない。また、週12時間勤務では、子供についての話をしたり、必要な書類を作成したりする時間を十分にとれない。早く定数配置にしてほしい。
10年3校研修で担当者を配置するのならば、ある程度経験を積んだ3校目の教員にしてほしい。
- ・定数化に向けての静岡県の取組を知りたい。
- 定数化が実現するのか、実現するならどのように運営していくのかが不安です。（現在担当一人につき、児童数24名で24時間指導しているため。）
- 子供用専用パソコンが必要
- 備品消耗品費が少なく、担当が購入することもある。教室環境も整っていないのに市が増設するので、現場が混乱し、保護者、児童、担当に負担がかかっている。
- ・今回のアンケート12「待機児童はいますか」について 沼津市は指導人数がいっぱいだと教育課程編成届を出さずに待機しているため、この質問には「0」と回答しました。でも、教育課程編成届を出すこともできていない待機児童は14人です。
・保護者送迎が困難なために通級できない児童がいるので、自校通級できる環境が増えるとよいと思います。
・14人1学級に向けてどのような計画で進めていくのか、具体的な数値を含めた県教委の意向を知りたいです。
- 通級指導教室担当者への勤務手当の見直しを働きかけて欲しい。（特別支援学級担任にはそれがあるのに対して）
- ・通級の次年度対象児の市教委への申請期日が10月初旬となっていて早すぎる。気持ちの打ち解けるのが早い子遅い子があり、次年度への必要性の見極めが難しい。せめて12月まで延ばしてほしい。また、1年の担任が保護者と合意してケース会議に持ち込めるか否かも10月初旬では間に合わず、2年生からの通級に至らない子もいる。
- 困り感のあるお子さんはいても、送迎に時間がかかることから、遠隔地からの受け入れ体制に問題がある。上に載っているようなサテライトやオンライン授業ができるなら詳細を教えていただきたい。
- 定数化に向けて、指導者を増やさなければならないと思うので、増級のスピードを早める必要があると思います。後継者を育成するためには、増設するより増級して、経験者から学んでいく方が新しく担当する先生の負担が少ないと思うので、複数担当の教室を増やすべきだと思います。
- 指導に必要な備品・消耗品の手配。自費で用意することがしばしばである。勤務時間ギリギリまで指導をしなければならない。改善したいところである。
- 通級に関わる事務処理や各市町における制度について情報交換がしたいです。
- 一年間ありがとうございました。

中学発達まとめ

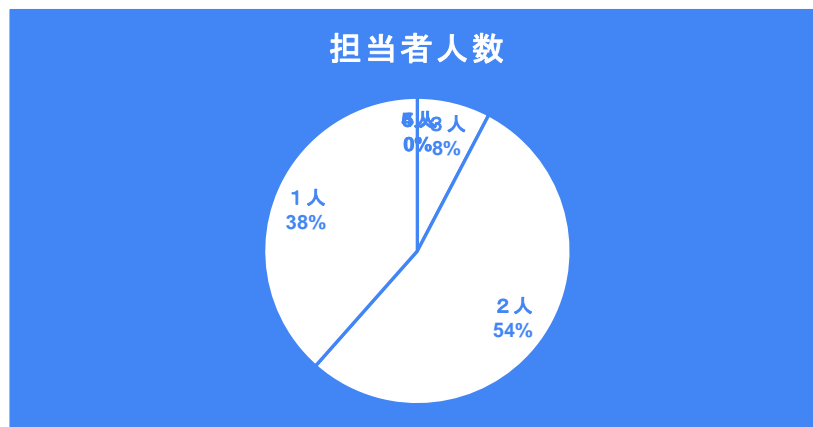
地区別	
東部	6校
中部	5
西部	2
合計	13



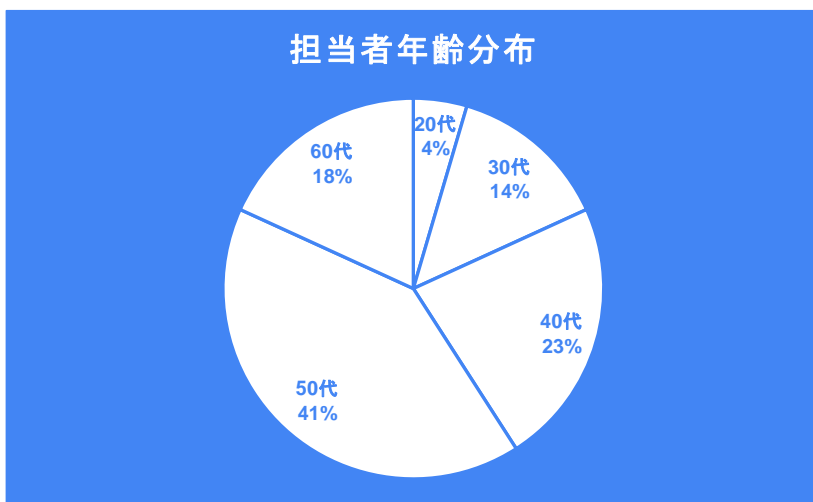
設置場所	
校内	13校
その他	0



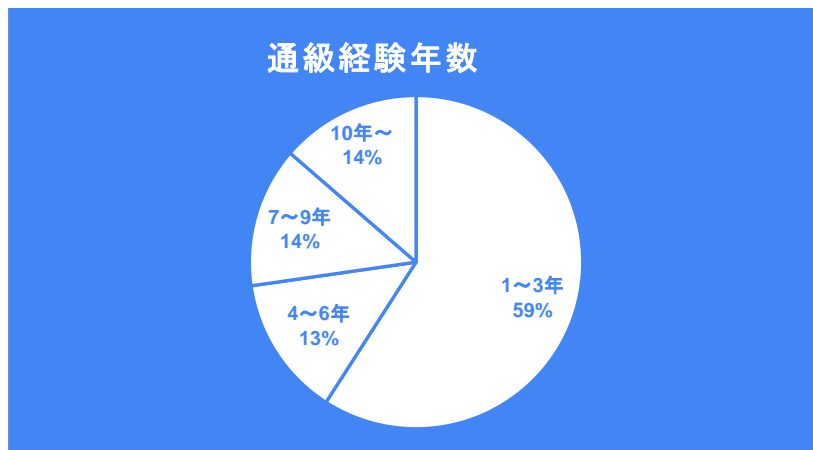
担当者人数	
6人	0校
5人	0
4人	0
3人	1
2人	7
1人	5



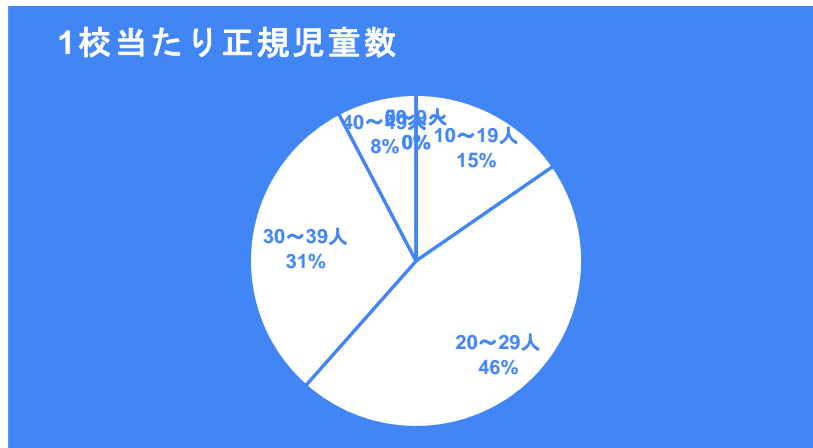
担当者年齢	
20代	1人
30代	3
40代	5
50代	9
60代	4
合計	22



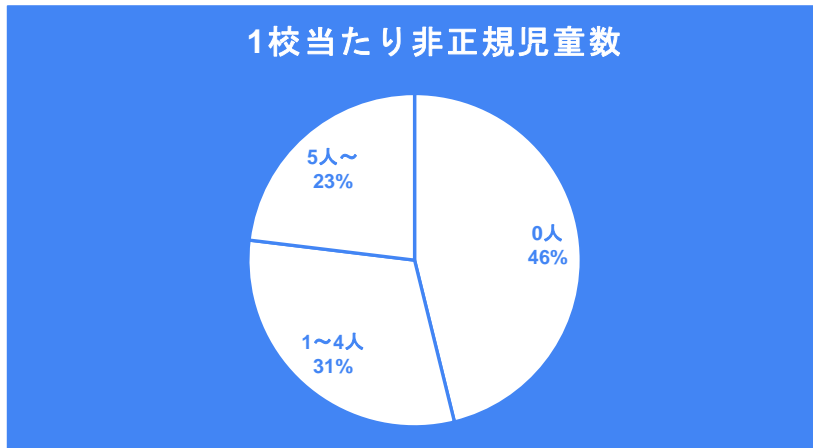
経験年数	
1～3年	13 人
4～6年	3
7～9年	3
10年～	3
	22



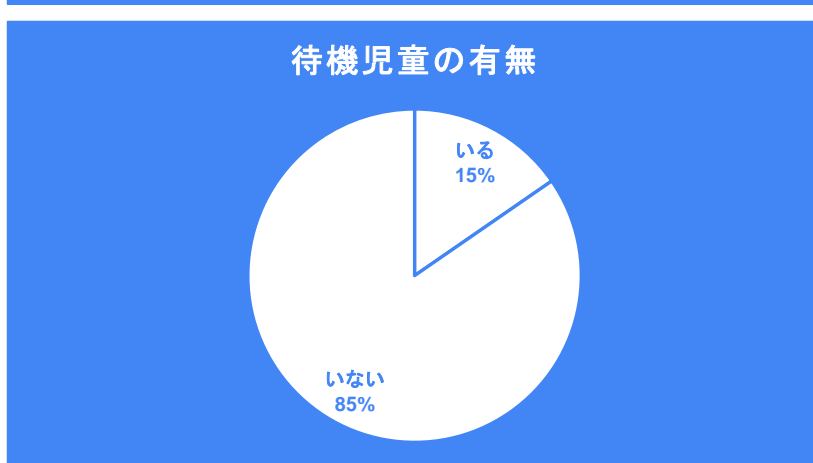
1校当たりの正規指導生徒数	
0～9人	0 校
10～19人	2
20～29人	6
30～39人	4
40～49人	1
50人～	0
計	365 人



非正規指導生徒数	
0人	6 校
1～4人	4
5人～	3
計	33 人

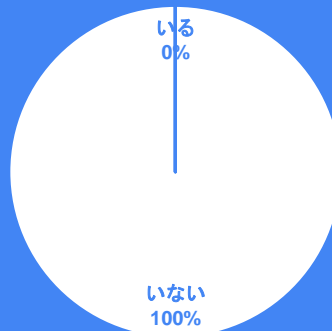


待機生徒の有無	
いる	2 校
いない	11



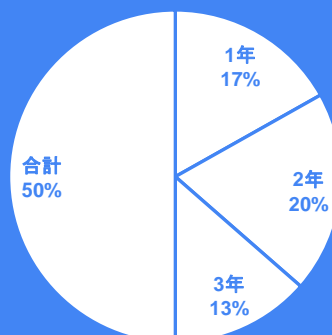
他町から受入れ生徒有無	
いる	0校
いない	45

他市町からの受け入れ児童の有無



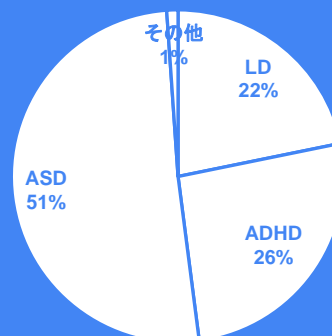
学年別通級生徒数	
1年	123人
2年	143
3年	99
合計	365

学年別通級児童数



障害区分別通級生徒数	
LD	80人
ADHD	96
ASD	187
その他	4
計	367

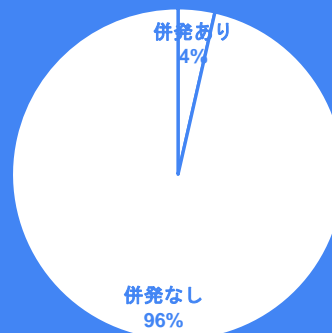
障害区分別人数



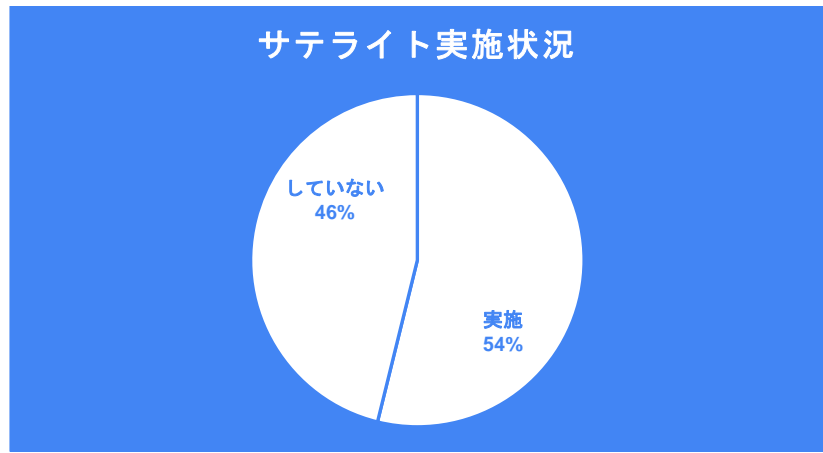
※合併が2人
いることになる。

言語障害の併発通級生徒数	
併発あり	13人
併発なし	352
合計	365

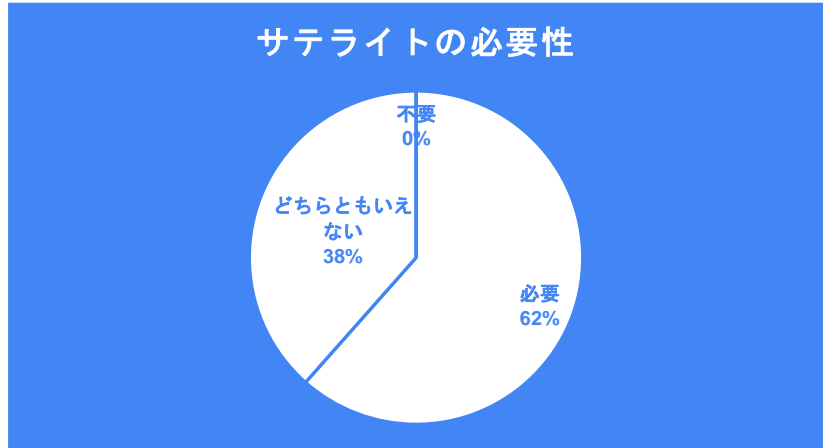
発達障害の併発



サテライトの実施状況
実施 7 校
していない 6



サテライトの必要性
必要 8 校
どちらともい
ない 5
不要 0



サテライト指導の成果

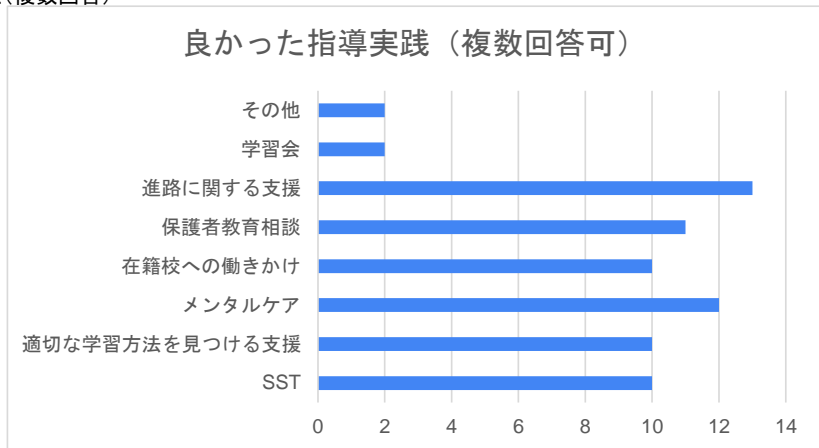
- 指導の度に担任や学年主任、特別支援教育コーディネーターと情報交換ができたため、最新の情報を交換することができた。また、在籍校での生徒の表れについて知ることができた。
サテライトの日の朝、特別支援教育コーディネーターから生徒の出欠連絡があったため、指導に行っても生徒がいないということがなかった。冬の時期には暖房器具の灯油の補充をお願いしたところ、早急に対応してくれた。
- 遠隔地で通えない生徒も、指導をていきでき、着実に困り感を軽減でき、自己肯定感を上げることができている。
- 保護者送迎ができない（車がない等）生徒が、在籍校で通級指導ができたことで、指導機会を十分に確保できた。
生徒にとって移動時間がないため、授業を抜けることの負担が軽減した。
コーディネーター等が通級指導を参観し、日常の支援に役立ててくださっていた。また、情報交換・情報共有ができた。
- 自校通級以外の対象生徒が通級しやすい
- 学校に行けない生徒が通うことができる。
- 必要な生徒に、授業を1時間だけ抜けて通級指導を行うことができること
- 在籍校に移動通級することで、連絡調整、共通理解が進み、管理職や担任、先生方との話がしやすい。生徒の課題や指導の注意点が共通理解しやすく、指導支援の方法についての共通理解ができる。生徒の在籍校における授業参観や生活の様子がつかみやすい。生徒の在籍校の授業参加が保証しやすく1時間のぬけだしで済む。
- 本校から離れた生徒にとっては、通級にかかる時間が短くなり、在籍校の授業を抜ける時間数が減ったこと。

サテライト指導の課題

-
- 生徒が体調不良なのに通級に来ることがあり、そのまま保健室へつれていくことがあった。家庭でも体調を把握していると思うが、無理をしてまで通級に参加しなくてもよいことを在籍校にも周知する。また、指導時間が異なるため、個々に車で行く担当3人分の駐車スペースが確保しづらいこともあった。
保護者と面談する機会がほとんどないため、通級ファイルのやりとりが保護者との貴重なやりとりになるが、そのファイルを持参し忘れる生徒もいる。担任との情報交換の時間を確実にとり、今まで以上に在籍校、保護者、通級の連携を図っていきたい。
- 実施していませんが、サテライト校の通級指導教室の理解が進んでいないと、教室の設置場所、対象生徒への声かけや時間割等で不都合が出やすいと聞いています。
- 指導の教室の環境整備。定期的な保護者の面談がしにくい事例もある。
- 教材の準備、自校の場合に通級を嫌がる生徒が出る。
- 抜けた授業の学習内容について、フォローが十分とは言えない。
- 教材や教具の準備や専用教室の環境
- 移動時間の確保や教材の持ち運び
- 保護者の送迎がないため、保護者と話す機会が少ないこと
勤務時間の関係で、授業記録を残したり授業準備をしたりすることに苦労すること
- 移動で指導時間が減り、担当できる人数が減ることがある。保護者が通級教室に見に来ていないので、キーパーソンである母親などの子ども理解や自己理解が進みづらく、生徒の変化や成長の実感が乏しくなることがある。母親が定期的にも参観できるようにしていきたい。
- 教具を本校から持参しなければならないこと。通級の時間割を固定せず、できる範囲で変えたものの、午前中だけの指導だったため、出られない授業が重なってしまったり、放課後の指導を入れられなかったりしたところが課題だと思われる。

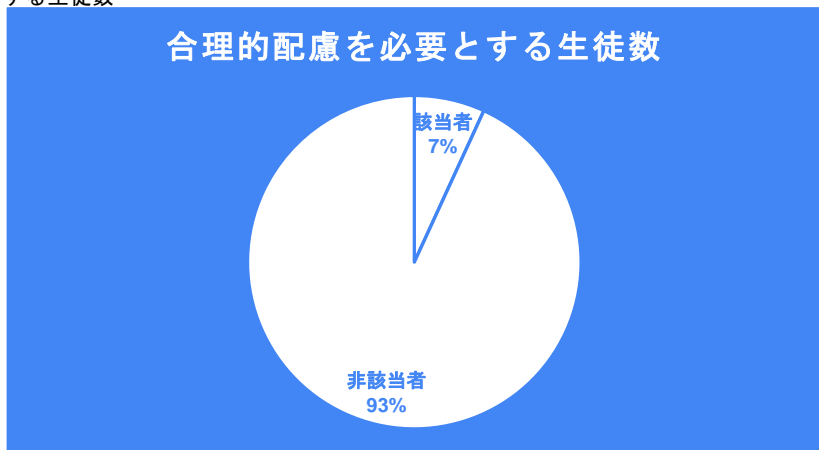
指導実践として良かったと思うこと(複数回答)

SST	10
適切な学習	10
メンタルケア	12
在籍校への	10
保護者教育	11
進路に関する	13
学習会	2
その他	2



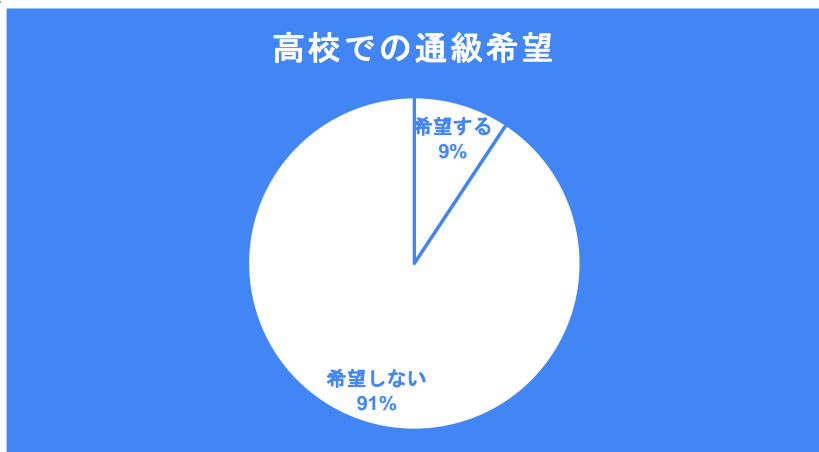
高校受験で合理的配慮を必要とする生徒数

該当者	25
非該当者	340



高校での通級を希望する生徒数

希望する	34
希望しない	331



ICTの活用

- デジタル教科書 タイピング練習
- 単純ですが、自分の取り組みや態度をビデオで撮影し、見ることで客観的に把握させる。
- 学習アプリの紹介、実践。chromebookの活用。
- 中2の総合学習「高校調べ」...クロムブックで該当高校のホームページを開いて資料を作成。
合唱...練習動画を見て、自分の歌う姿勢、表情等を振り返る。
- クロムブックで、Eボード等を活用している。
- 長期休業中の生活表を、GIGA端末で記録し、担任等と共有した。
不登校生徒が学校とつながるために、GIGA端末を使って、日記を書いたり、修学旅行の調べ学習をやって班員と共有したりした。
記憶カトレーニングやノートテイクなどでアプリを活用した。
- 提出課題をすべてデータ化してタブレットで取り組んでいる。
- タイピング練習
- タイピング練習、読み書きが苦手な子が使えるツールの確認・使い方練習 等
- オンライン通級相談、teamsを使っての対面対話、チャット活用相談、ただし保護者が許可しており、事前にまたは後日確認が取れる場合のみ。
- ・デジ教科書の紹介 ・通級指導担当同士の指導参観

後継者育成の工夫

- 書類の形式を市内共通にする。市内の通級指導教室担当者が集まり、互いに指導方法などを紹介し合う研修を行う。
- まずは自分自身の専門性の向上に努めることが大事だと思います。
- 週に1回の通級担当者同士の打ち合わせ。週に1回の校長先生と通級担当者との会議。その他、指導内容の情報交換は常に行っている。
- 今年度、市内中学校に2校目が開設されたので、その担当者に本校の書類様式や必要資料をデータと紙媒体で渡した。市内小中学校通級指導教室の担当者研修会を年6回実施し、指導及び支援方法や教材、運営等に関する指導実践や情報交換会を行い、連携している。
- 丁寧に、指導のサポートをしている。
- 校長に依頼
- 市内で新任者研修を、オンラインで行っていただいた。
- 教育委員会への提言
- 実践したワークシートを視覚的に整理している。
- 管理職へ担当者の複数配置を要望
- 現在の指導内容の記録を残すこと
- 同じ隣の教室で一年間は指導できるようになっている。
- 今までの資料や教材を取り出して見られるよう、わかりやすい配置にしている。また、話しやすい雰囲気作りをしたりすることで、わからないことや疑問も聞きやすくしている。

希望する研修

- 適切なアセスメントや具体的な指導方法の研修、カウンセリングについて、トラウマ治療 など
- 中学の数学で、問題に合った考え方をずっと選択できない生徒に対する指導方法の例
- 今年度並みで構いません。
- 英語学習。発達障害、言語の遅れ等のある子たちの英語嫌い、苦手さが顕著である。通級指導教室在籍の子でなくても通常学級には数多く見られる。小学校から英語学習も始まるにあたり、取り組める対策や準備があれば、また中学校での適切な支援方法を研修したい。
- 信州大の下山先生
- 虐待等を受けたトラウマを抱えている生徒への対応について
- LDへの対応
- 「トラウマインフォームドケア」大阪大学大学院人間科学研究科 野坂祐子氏
- 中学生に感覚統合を意識した活動をどのように行うと効果的なのかを学びたい。
中学生までに指先の動きが身につけていない子（箸が上手く使えない、手先の細かい作業が困難である等）に、どのように働きかけるとよいのかに悩んでいるため。
- 平林み先生、杉山修先生
- 具体的な指導内容についての研修

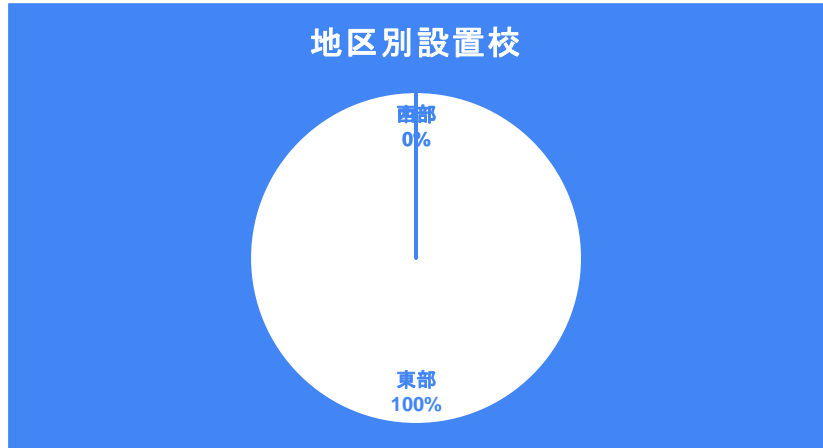
ご意見等

- 現在担当している教員の高齢化が進んでいるため、市教委を中心に指導者の育成を進めてほしい。中学校の設置校が3校のみなので、増やしてほしい。WISCなどの検査器具を市教委で購入してほしい、など。
- 担当者3名に対して教室は3教室あるが、放課後の指導に保護者がつれてきた際には、1教室を保護者待機スペースにしているため、通級教室隣接の調理準備室を使って指導を行っている。エアコンが設置されていない教室のため、夏場や冬場の指導には適していない環境である。生徒がのびのび活動できるような、十分な設備が整うことが早急な課題である。
- 通級指導教室へのWi-Fiの設置、通級担当者用のクロムブックの貸与がされると、支援や指導の幅が広がります。生徒と同じ機器を使用することで支援指導がしやすい。

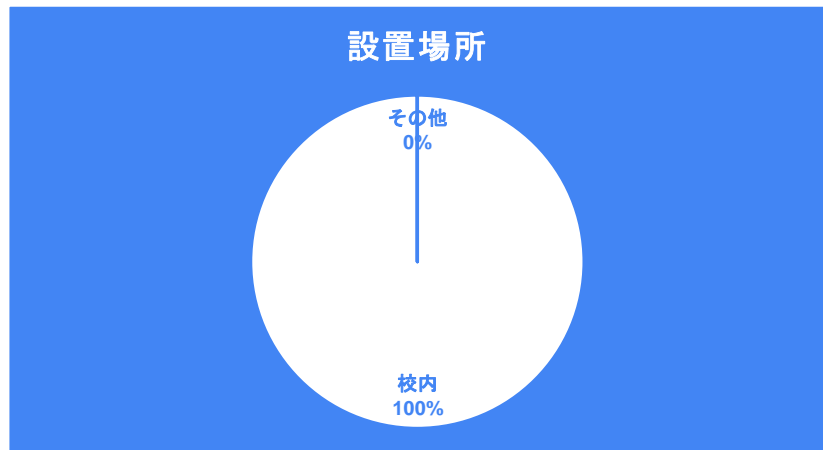
- 教員、保護者に対して、中学通級の認知も広がり、生徒数が増えているが、それを受け入れる教室や担当者が不足しています。また、研修交流で期限付きで担当になる方もいますが、多くの在籍校が絡む中、教室経営を任せられる人材が不足していると感じます。（特にこの教室は管理職がいないため、迅速な判断を求められた時など、経験抱負な方、的確な判断が出せる方が担当する必要があると思います。）
- 増級までの動きや必要な条件について。
定数化までの動向を細かく知りたい。定数化までに準備しておきたいこと。
- 他校生が多く、外線でのやりとりが多いのだが、外線につながる電話設備が指導教室にないため、不便である。

難聴まとめ

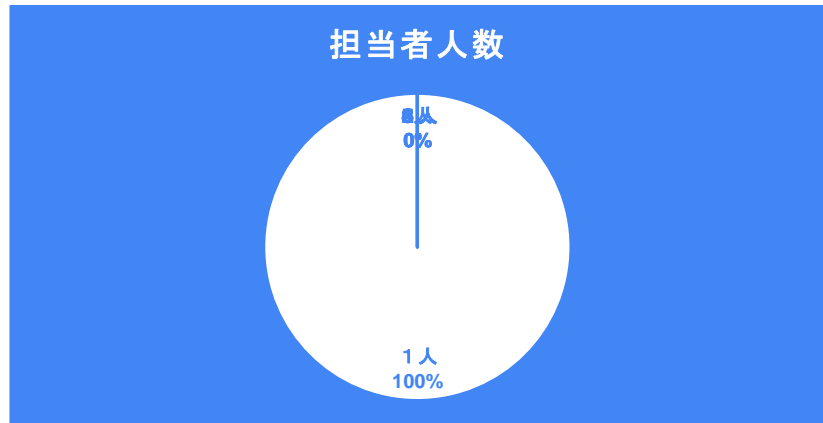
地区別	
東部	1 校
中部	0
西部	0
合計	1



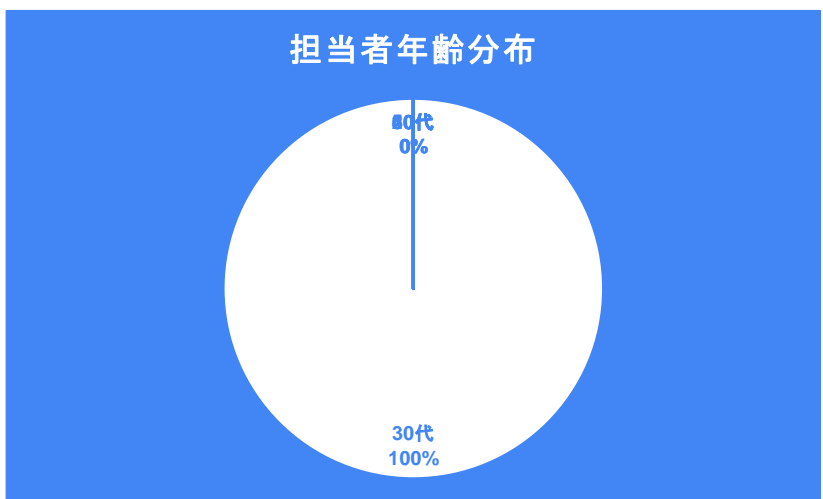
設置場所	
校内	1 校
その他	0



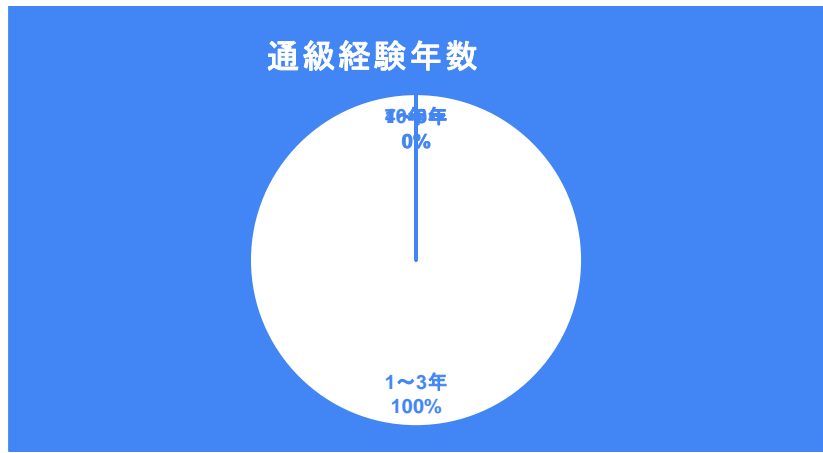
担当者人数	
6人	0 校
5人	0
4人	0
3人	0
2人	0
1人	1



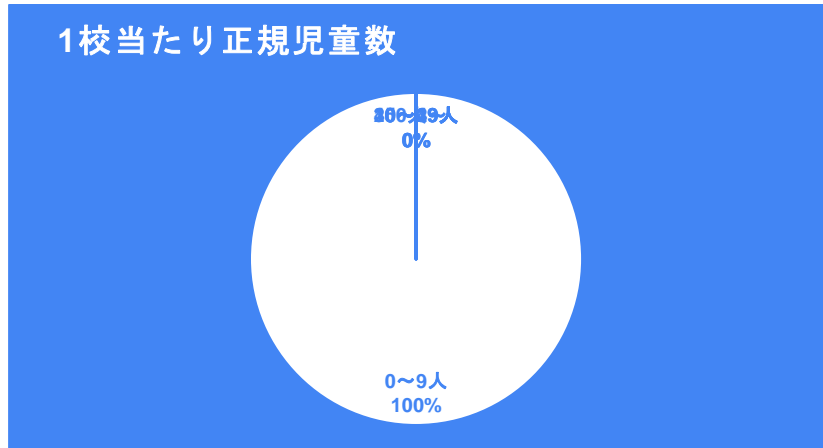
担当者年齢	
20代	0 人
30代	1
40代	0
50代	0
60代	0
合計	0



経験年数	
1～3年	1 人
4～6年	0
7～9年	0
10年～	0
計	1



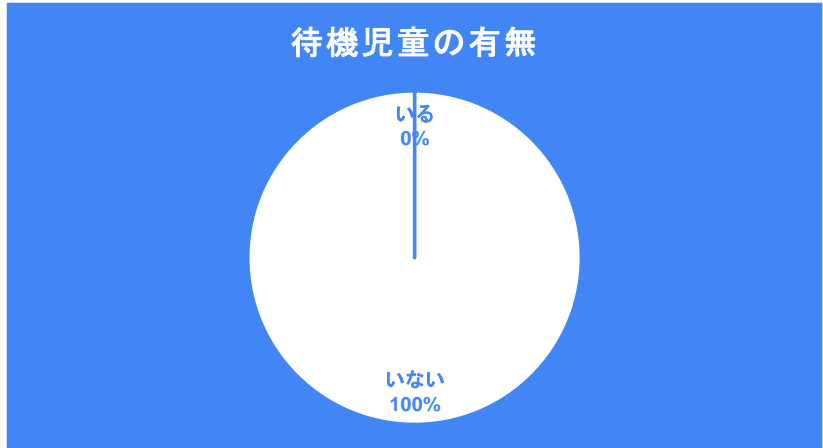
1校当たりの正規指導児童数	
0～9人	1 校
10～19人	0
20～29人	0
30～39人	0
40～49人	0
50人～	0
計	6 人



非正規指導児童数	
0人	1 校
1～4人	0
5人～	0
計	1 人

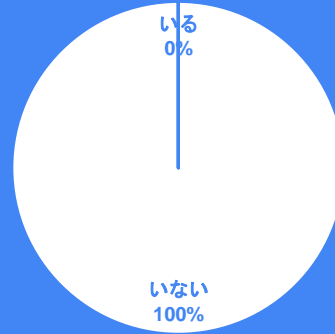


待機児童の有無	
いる	0 校
いない	1



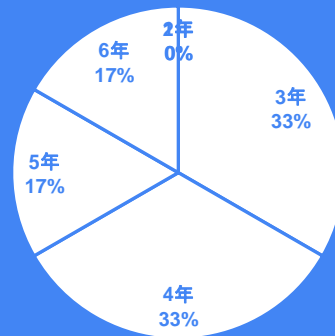
他町から受入れ児童有無	
いる	0 校
いない	1

他市町からの受け入れ児童の有無



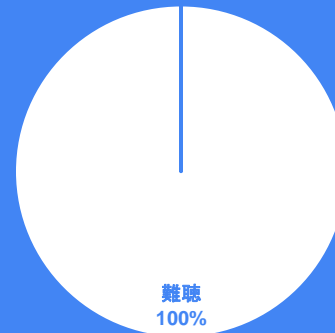
学年別通級児童数	
1年	0 人
2年	0
3年	2
4年	2
5年	1
6年	1
合計	6

学年別通級児童数



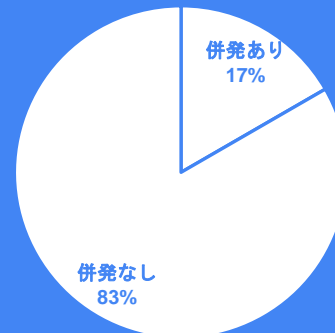
障害区分別通級児童数	
難聴	6 人

障害区分別人数

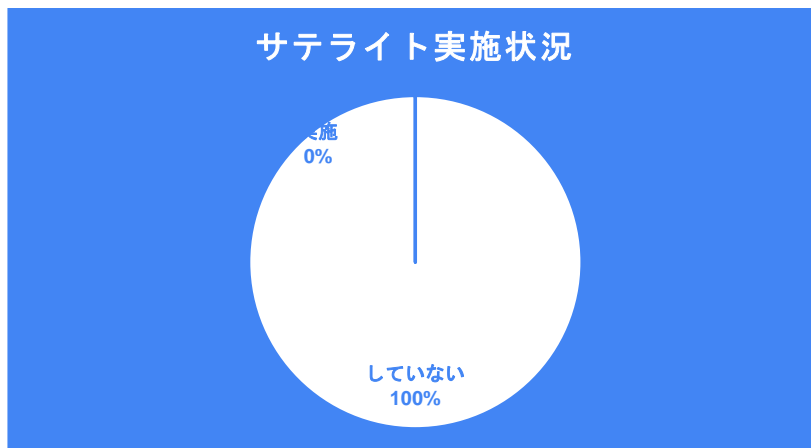


発達障害の併発通級児童数	
併発あり	1 人
併発なし	5
合計	6

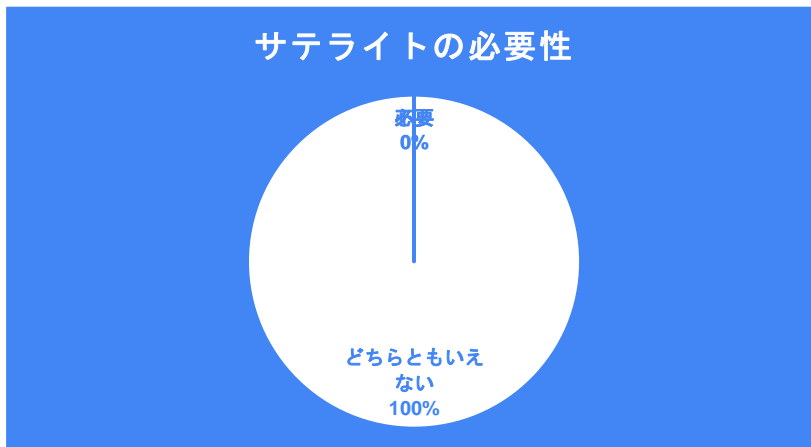
発達障害の併発



サテライトの実施状況
実施 0
していない 1



サテライトの必要性
必要 0
どちらともい
ない 1
不要 0



ICTの活用例

- 動画教材を見せたりインターネットを使って調べたりするのにICTを使った。
- 言語難聴通級指導教室の経験がある支援員(60代)2名とボランティアアドバイザー(60代と70代)2名がいてくださり、授業についてアドバイスをくださる。令和3年度初めは、研修期間を設けてくださり、ことばとみみの教室の指導について学んだ。

後継者育成の工夫

希望する研修

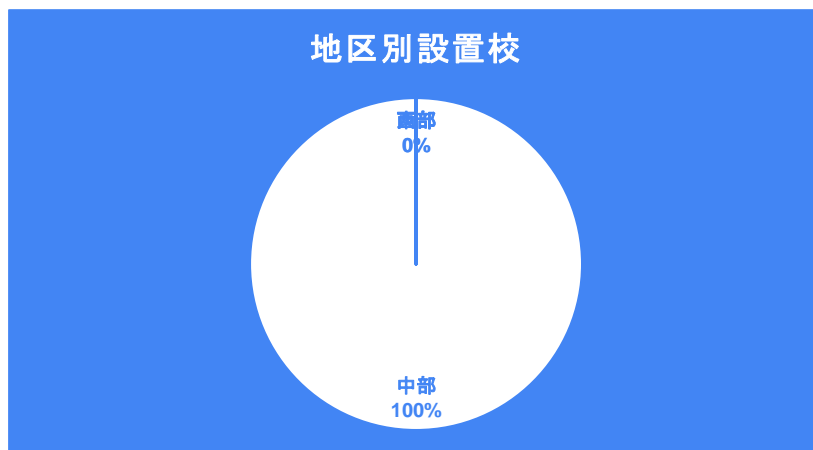
- 難聴 (バスケットを始めた子がいるので、難聴で活躍している津屋一球選手など)
-

ご意見等

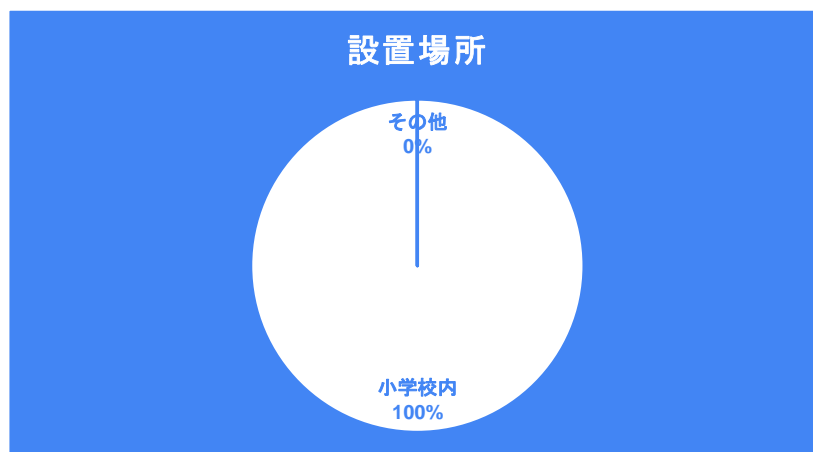
- ことばの教室は新採4年目、みみの教室は新採6年目が担当している。若手新規教員の10年3校異なる校種等を経験すること(県要望書意見交換報告の資料より)となっており、例外で担当者になったのかなと思う。今年度までは、支援員の先生とボランティアアドバイザーの先生がいてくださったので良かったが、4人とも60歳以上と高齢であるため、今後ずっと関わっていただける保障がないことが心配である。ことばとみみの教室がある東館は古く、Wi-Fi環境も整備されていない。(学校のポータブルWi-Fiがあいているときは持ち込んでいる)

肢体不自由まとめ

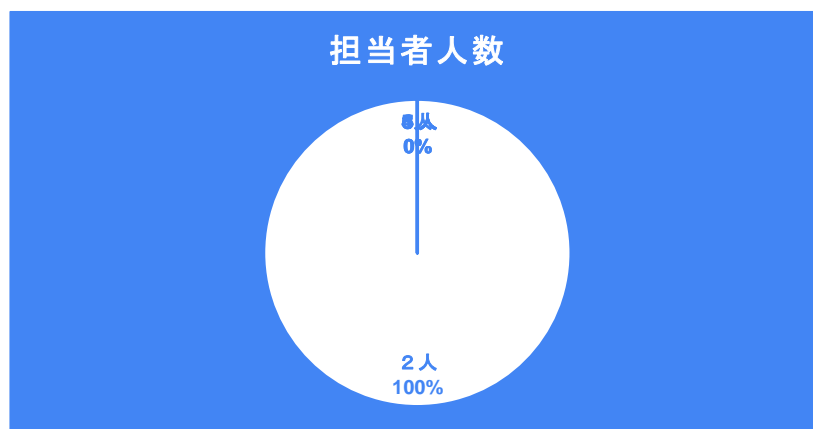
地区別	
東部	0 校
中部	1
西部	0
合計	1



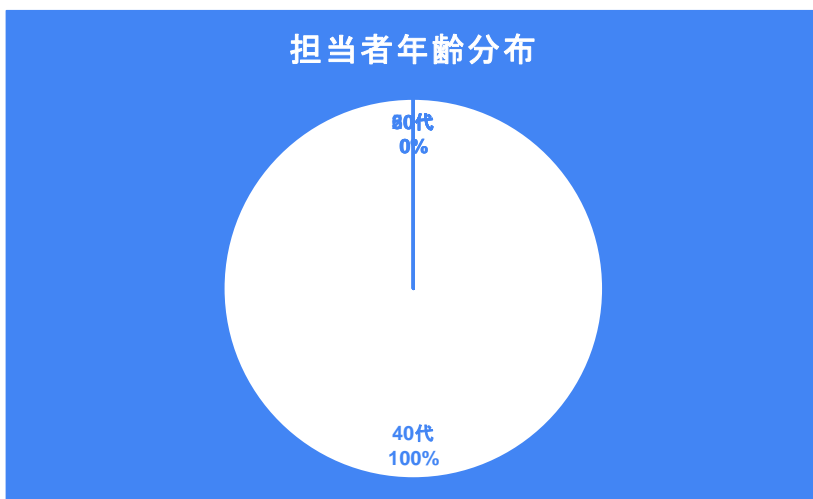
設置場所	
小学校内	1 校
その他	0



担当者人数	
6人	0 校
5人	0
4人	0
3人	0
2人	2
1人	0

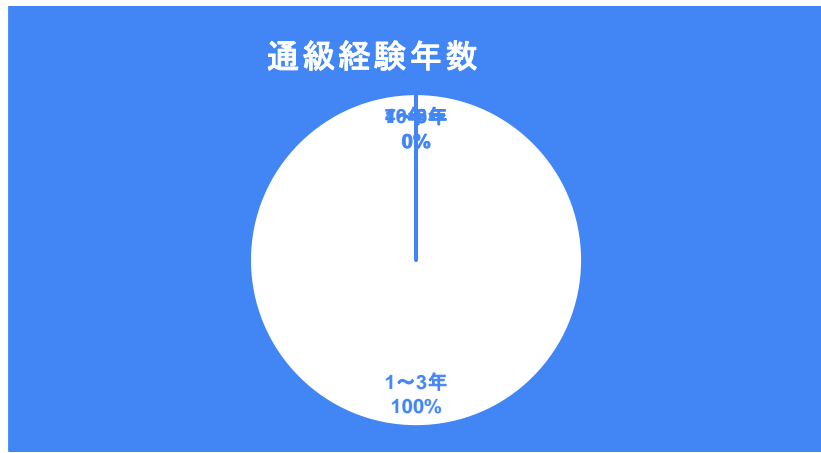


担当者年齢	
20代	0 人
30代	0
40代	2
50代	0
60代	0
合計	2

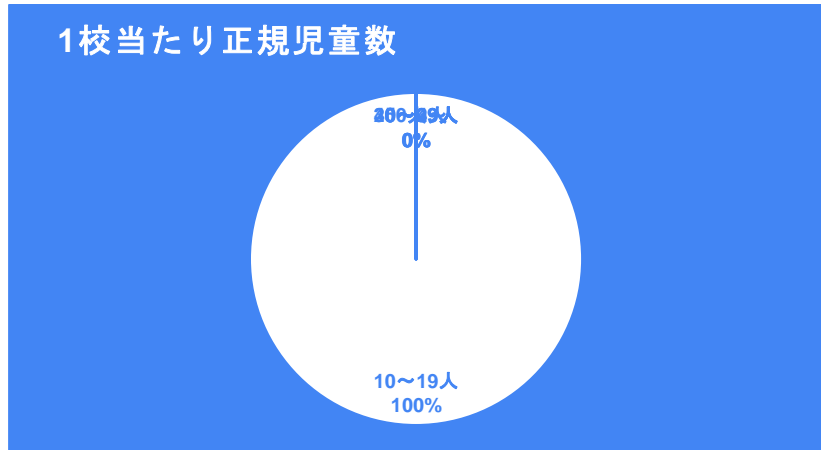


※2人のうち1人は講師

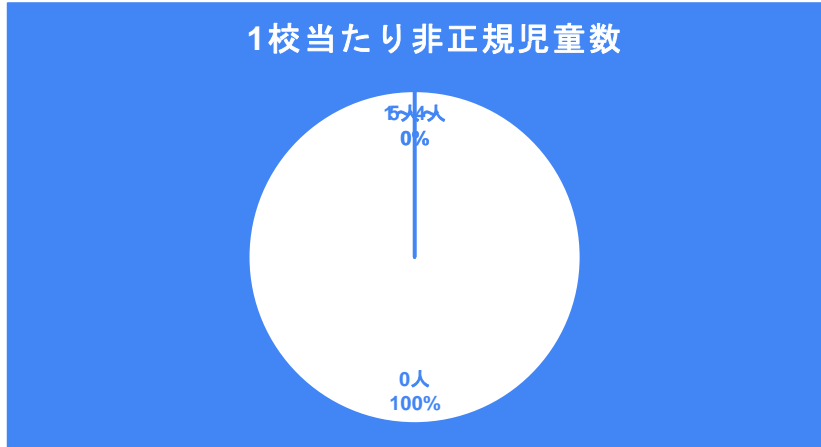
経験年数	
1～3年	2 人
4～6年	0
7～9年	0
10年～	0
計	2



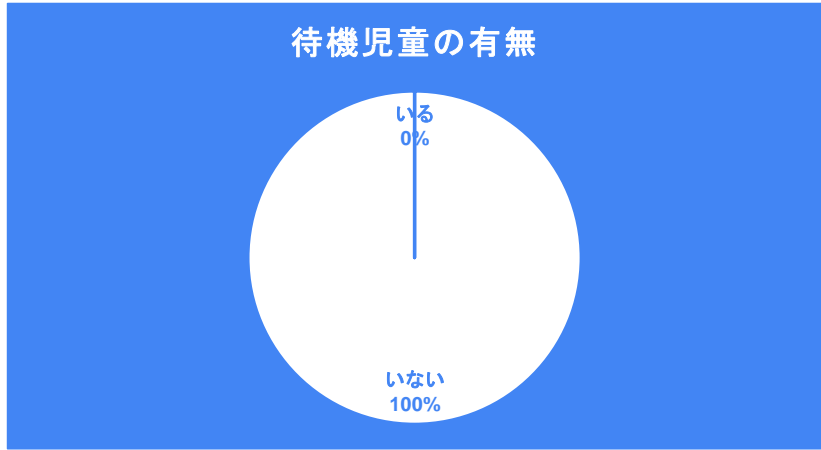
1校当たりの正規指導生徒数	
0～9人	0 校
10～19人	1
20～29人	0
30～39人	0
40～49人	0
50人～	0
計	11 人



非正規指導生徒数	
0人	1 校
1～4人	0
5人～	0
計	0 人

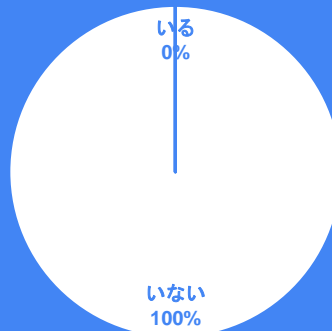


待機生徒の有無	
いる	0 校
いない	1



他町から受入れ生徒有無	
いる	0 校
いない	1

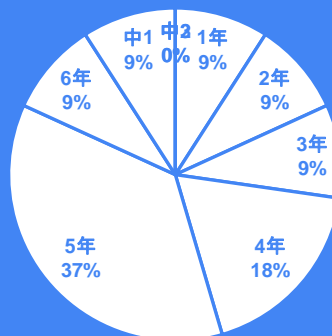
他市町からの受け入れ児童の有無



学年別通級生徒数

1年	1 人
2年	1
3年	1
4年	2
5年	4
6年	1
中1	1
中2	0
中3	0

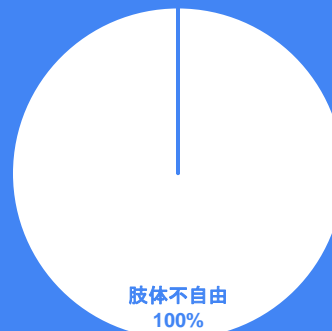
学年別通級生徒数



障害区分別通級生徒数

肢体不自由	11 人
-------	------

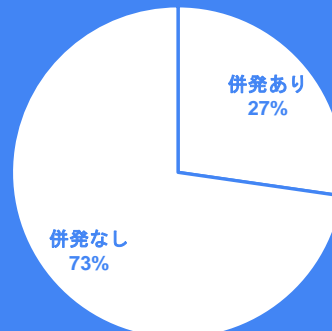
障害区分別人数



言語障害の併発通級生徒数

併発あり	3 人
併発なし	8
合計	11

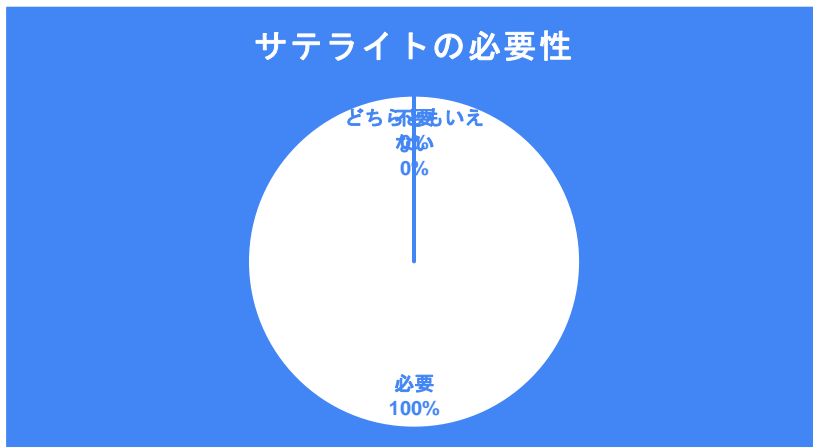
発達障害の併発



サテライトの実施状況
 実施 1 校
 していない 0



サテライトの必要性
 必要 1 校
 どちらともいえない 0
 不要 0



サテライト指導の成果

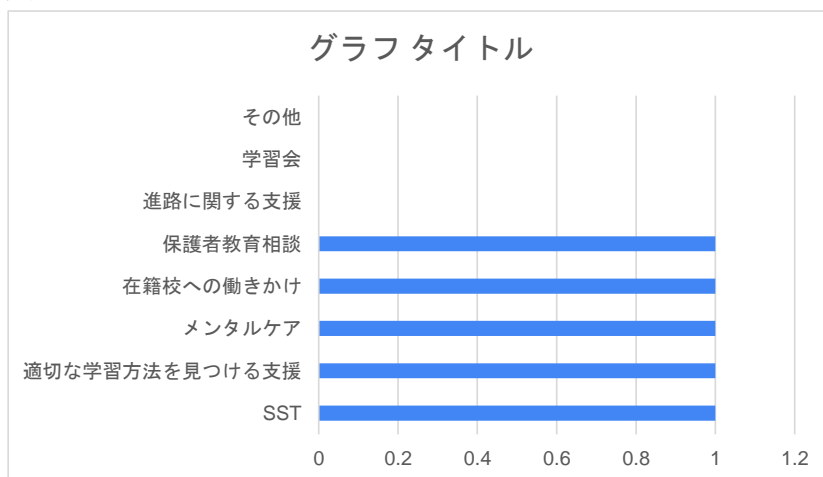
○ 体育を見学する子どもの姿が目標に向かって生き生きと活動する姿に変化した。

サテライト指導の課題

○ 移動の時間が掛かるので定数を考えるとき、サテライトでない子と同じカウントでは難しい。

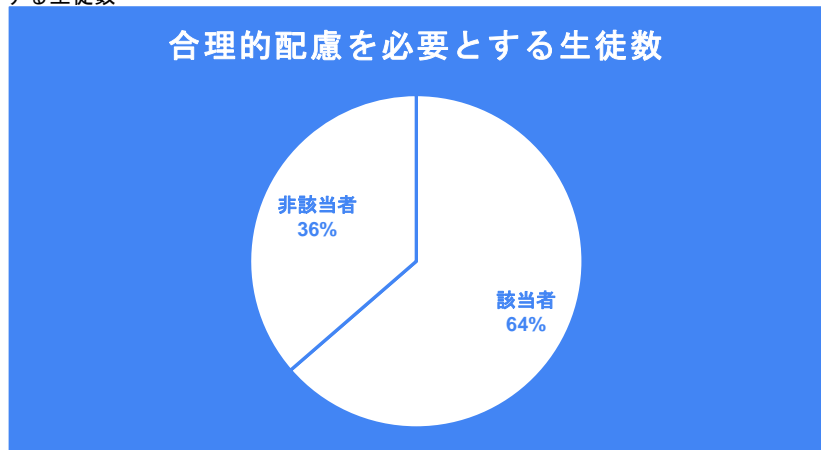
指導実践として良かったと思うこと(複数回答)

SST 1 校
 適切な学習 1
 メンタルケア 1
 在籍校への 1
 保護者教育 1
 進路に関する 0
 学習会 0
 その他 0



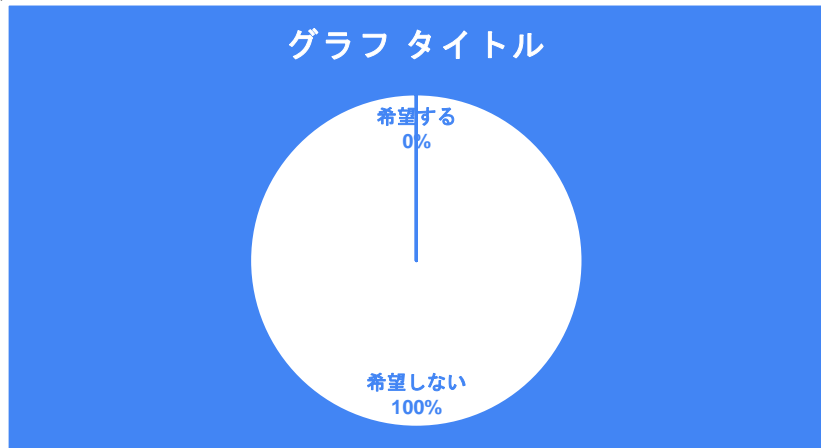
高校受験で合理的配慮を必要とする生徒数

該当者 7
非該当者 4



高校での通級を希望する生徒数

希望する 0人
希望しない 11



ICTの活用

○ 映像遅延アプリの活用

後継者育成の工夫

○ 必要があると考えることを、物や書類にして残す。

希望する研修

○ 今の所思いあたりません。

ご意見等

○ 1肢体の学校、学級、通級という選択肢の整備。2広大な指導対象地域をまわり、年間の業務による移動距離が8,000キロ程度になるため、将来的には公用車の配置が妥当であること。3指導の特性から、男性担当者女性担当者の両方の配置が必要であること。